

独立行政法人 国立国語研究所
第13回「ことば」フォーラム

方言地図の見方・作り方

2003年1月18日(土) 14:00~17:00
国立国語研究所講堂

方言地図という種類の地図があります。この地図はどんな地図で、どのように見ることができるのでしょうか。また、その地図はどのようにして作られるのでしょうか。具体的に地図を提示し、また、参加者のみなさんとともに地図を描いてみながら、見方・作り方を話し合ってみたいと思います。

プログラム

【14:00】

開会

ごあいさつ 所長 甲斐睦朗

【14:05-14:35】

方言地図とは何か 担当：大西拓一郎

【14:35-15:05】

方言地図の作り方 担当：三井はるみ

——休憩 10分——

【15:15-15:45】

方言地図を作ってみよう 担当：大西拓一郎

【15:45-16:05】

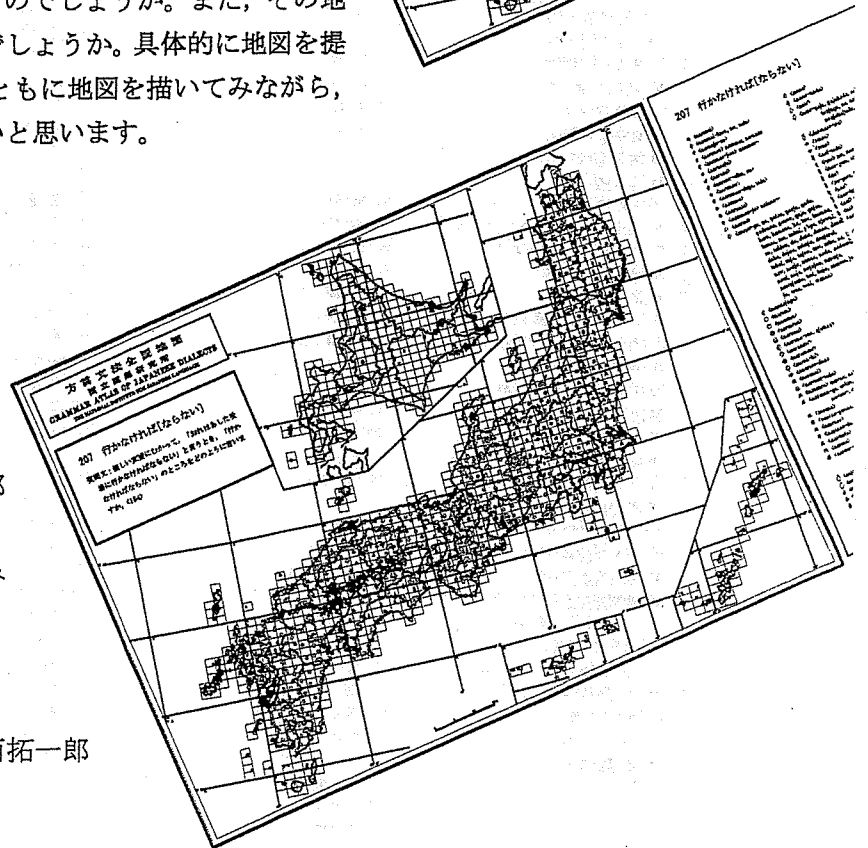
質問コーナー

——休憩 10分——

【16:15-17:00】

地図作りのデモンストレーション〈希望者のみ参加〉

御用の方は、係の者までお願いします。黄緑色の名札をつけています。
手話の見える位置は限られていますので、席を譲り合ってお使いください。
方言地図の関連書籍を会場後方で展示しています。どうぞご覧ください。



方言文法全国地図 第1~5集 地図一覧

第1集

- 1 雨が(降ってきた)
- 2 先生が(来られた)
- 3 どろぼうが(入った)
- 4 酒が(飲みたい)
- 5 酒が(好きだ)
- 6 酒を(飲む)
- 7 おれを(連れて行ってくれ)
- 8 そんなことを(言うな)
- 9 そんなことを(言うな)
- 10 あれは(学校だ)
- 11 ビールは(飲まない)
- 12 酒は(飲む)
- 13 おれの(手拭)
- 14 先生の(手拭)
- 15 どろぼうの(手拭)
- 16 (ここに)有るのは
- 17 行くのでは(ないか)
- 18 行くのに(便利だ)
- 19 東の方へ(行け)
- 20 東京に(着いた)
- 21 見に行(った)
- 22 仕事に(行(っ)た)
- 23 大工に(な(っ)た)
- 24 ここに(有る)
- 25 おれに(貸せ)
- 26 息子に(手紙に)来てもらった
- 27 犬に(追いか)けられた
- 28 運動場で(遊ぶ)
- 29 船で(来た)
- 30 1万円で(お願いします)
- 31 それより(あの方が)良い
- 32 田中という人
- 33 (雨が)降っているから
- 34 だから(言(っ)た)じゃ(ない)か
- 35 だから(言(っ)た)じゃ(ない)か
- 36 子どもなので(わからな(っ)た)
- 37 子どもなので(わからな(っ)た)
- 38 寒いけれども(が)まんしよう
- 39 だけど(行(な)かなければ)ならない
- 40 植えたのに(枯れて)しまった
- 41 食いながら(歩(く)な)
- 42 買物が(て)ら(見物)する
- 43 帰りが(け)に(買物)をした
- 44 お茶でも(飲もう)
- 45 パンでも御飯でも(食(な)そう)
- 46 子どもでも(知(っ)ている)
- 47 皮だけ(食(べ)た)
- 48 (食(っ)て)寝(だ)けなら
- 49 雨ばかり(降(っ)ている)
- 50 百円くらい(使(っ)た)
- 51 百円しか(ない)
- 52 百円ぶん(く)ださい
- 53 皮ごと(食(べ)た)
- 54 傘なんか(いら(な)ない)
- 55 安ければ安いほど(良(い))
- 56 何が起(こ)るやら(わか(ら)ない)
- 57 誰やら(来(た))
- 58 筆やら紙やら(たく(ま)んも(ら)った)
- 59 行くだの行(な)かないだの(てい(め)い)
- 60 今日こそ(終(わ)らせる)

第2集

- 61 起きる
- 62 飽きる
- 63 足りる
- 64 開ける
- 65 任せる
- 66 寝る
- 67 書く

- 68 死ぬ
- 69 来る
- 70 する
- 71 書く(人)
- 72 起きない
- 73 飽きない
- 74 見ない
- 75 借りない
- 76 足りない
- 77 開けない
- 78 任せない
- 79 寝ない
- 80 書かない
- 81 貸さない
- 82 蹴らない
- 83 来ない
- 84 しない
- 85 起きる
- 86 見る
- 87 開ける
- 88 任せる
- 89 蹴れ
- 90 来い
- 91 しろ
- 92 出した
- 93 飽きた
- 94 任せた
- 95 行(っ)た
- 96 書(い)た
- 97 研(い)だ
- 98 貸(し)た
- 99 建(て)た
- 100 建(っ)た
- 101 立(っ)た
- 102 飛(ん)だ
- 103 飲(ん)だ
- 104 蹴(っ)た
- 105 買(っ)た

第3集

- 106 起きよう
- 107 開(け)よう
- 108 寝(よ)う
- 109 書(こ)う
- 110 来(よ)う
- 111 し(よ)う
- 112 書(く)だ(ら)う
- 113 来(ら)だ(ら)う
- 114 するだ(ら)う
- 115 書(か)れる
- 116 来(ら)れると
- 117 さ(れ)る
- 118 開(け)させ(る)
- 119 書(か)せる
- 120 来(さ)せる
- 121 さ(せ)る
- 122 書(か)せ(る)
- 123 書(か)せ(た)
- 124 書(か)せ(よ)う
- 125 書(か)せ(ら)れる
- 126 起(き)れ(ば)
- 127 任(せ)れ(ば)
- 128 書(け)ば
- 129 死(ね)ば
- 130 来(れ)ば
- 131 す(れ)ば
- 132 起(き)るなら
- 133 書(く)なら
- 134 来(る)なら
- 135 するなら

136 高い(物)

- 137 高くない
- 138 高く
- 139 高くなる
- 140 珍しくなる
- 141 高(か)った
- 142 高(い)だ(ら)う
- 143 高(け)れ(ば)
- 144 高(い)な(ら)
- 145 高(か)だ
- 146 静(か)な(と)ころ
- 147 静(か)で(な)い
- 148 静(か)だ(っ)た
- 149 静(か)だ(ら)う
- 150 静(か)なら

第4集

- 151 行(な)か(っ)た
- 152 行(き)は(し)な(っ)た
- 153 行(な)な(け)れ(ば)
- 154 行(な)な(い)な(ら)
- 155 行(な)な(い)で
- 156 行(な)な(く)て
- 157 行(な)な(く)て(も)
- 158 無(か)っ(た)
- 159 高(く)は(な)か(っ)た
- 160 高(く)は(な)な(っ)た
- 161 見(は)し(な)い
- 162 来(は)し(な)い
- 163 う(ん), 無(い)よ
- 164 う(ん), 無(い)よ
- 165 い(や), 有(る)よ
- 166 い(や), 有(る)よ
- 167 降(れ)ば(船)は(出)な(い)だ(ら)う
- 168 降(っ)たら(お)れは(行)か(な)い
- 169 行(く)と(だ)め(に)な(り)そ(う)だ
- 170 行(っ)たら(終(っ)て)いた
- 171 行(っ)た(っ)て(だ)め(だ)
- 172 行(っ)た(っ)て(だ)め(だ)
- 173 読(む)こ(と)が(で)き(る)【能力可能】
- 174 読(む)こ(と)が(で)き(る)【状況可能】
- 175 着(る)こ(と)が(で)き(る)【能力可能】
- 176 着(る)こ(と)が(で)き(る)【状況可能】
- 177 起(き)るこ(と)が(で)き(る)【状況可能】
- 178 来(る)こ(と)が(で)き(る)【状況可能】
- 179 するこ(と)が(で)き(る)【能力可能】
- 180 できる
- 181 書(く)こ(と)が(で)き(る)【風性可能】
- 182 読(む)こ(と)が(で)き(な)い【能力可能】
- 183 読(む)こ(と)が(で)き(な)い【状況可能】
- 184 着(る)こ(と)が(で)き(な)い【能力可能】
- 185 着(る)こ(と)が(で)き(な)い【状況可能】
- 186 お(も)し(ろ)か(っ)た(な)あ
- 187 お(も)し(ろ)か(っ)た(な)あ
- 188 行(っ)た(な)あ
- 189 行(っ)た(な)あ
- 190 いた(よ)
- 191 いた(よ)
- 192 書(い)た(よ)
- 193 書(い)た(よ)
- 194 強(か)っ(た)よ
- 195 強(か)っ(た)よ
- 196 いた
- 197 いる(か)
- 198 散(っ)ている【進行態】
- 199 散(っ)ている【結果態】
- 200 散(り)ヨル【未然態】
- 201 死(ニ)ヨル【未然態】
- 202 有(り)ヨル【進行態】
- 203 もう少しで落ちるところだった

- 204 もう少しで落ちるところだった
- 205 読んでしまった

第5集

- 206 行(な)な(け)れ(ば)な(ら)ない
- 207 行(な)な(け)れ(ば)な(ら)ない
- 208 行(な)な(け)れ(ば)な(ら)ない—総合—
- 209 起(き)る(や)さ(し)く—その1—
- 210 起(き)る(や)さ(し)く—その2—
- 211 起(き)る(や)さ(し)く—総合—
- 212 起(き)る(き)び(し)く—その1—
- 213 起(き)る(き)び(し)く—その2—
- 214 起(き)る(き)び(し)く—総合—
- 215 開(け)る(や)さ(し)く—その1—
- 216 開(け)る(や)さ(し)く—その2—
- 217 開(け)る(や)さ(し)く—その3—
- 218 開(け)る(き)び(し)く—その1—
- 219 開(け)る(き)び(し)く—その2—
- 220 開(け)る(き)び(し)く—その3—
- 221 行(く)な(よ) (や)さ(し)く
- 222 行(く)な(よ) (や)さ(し)く
- 223 行(く)な(よ) (き)び(し)く
- 224 行(く)な(よ) (き)び(し)く
- 225 行(っ)て(は)い(け)な(い)
- 226 行(っ)て(は)い(け)な(い)
- 227 行(き)た(い)な(あ)
- 228 行(き)た(い)な(あ)
- 229 行(き)た(く)な(い)—その1—
- 230 行(き)た(く)な(い)—その2—
- 231 行(っ)て(も)ら(い)たい
- 232 行(こ)う(と)思(っ)て(い)る
- 233 行(こ)う(と)思(っ)て(い)る
- 234 行(く)ま(い)
- 235 行(こ)う(よ)
- 236 行(こ)う(よ)
- 237 行(く)だ(ら)う
- 238 行(く)だ(ら)う
- 239 行(っ)た(ら)う
- 240 雨(だ)らう
- 241 降(り)そ(う)だ
- 242 良(さ)そ(う)だ
- 243 雨(だ)そ(う)だ—その1—
- 244 雨(だ)そ(う)だ—その2—
- 245 雨(だ)そ(う)だ—その3—
- 246 雨(だ)そ(う)だ—総合—
- 247 高(い)そ(う)だ—その1—
- 248 高(い)そ(う)だ—その2—
- 249 高(い)そ(う)だ—その3—
- 250 いた(そ)う(だ)—その1—
- 251 いた(そ)う(だ)—その2—
- 252 いた(そ)う(だ)—その3—
- 253 誰(か)が(知(っ)て(い)る(だ)ら)う
- 254 どこ(か)に(あ(っ)る(だ)ら)う
- 255 いつ(か)(聞(い)た(こ)と)が(あ)る
- 256 (それは)何(か)
- 257 誰(か)が(行(く)か)(分(ら)な)い
- 258 誰(か)が(行(く)か)(分(ら)な)い
- 259 誰(か)が(や(る)もの)か
- 260 誰(か)が(や(る)もの)か—その1—
- 261 誰(か)が(や(る)もの)か—その2—
- 262 も(ら)っ(た)
- 263 や(っ)た
- 264 や(っ)た(か)
- 265 や(っ)た(か)
- 266 くれ
- 267 ありがとう—短い形—
- 268 ありがとう—長い形の前半—
- 269 ありがとう—長い形の後半—
- 270 ありがとう—総合—

方言地図とは何か

大西拓一郎

1. 方言と場所のむすびつけ

方言にはさまざまな語形があらわれます。たとえば、「行かなかった」ということをイカナンダと言ったりイカザッタと言ったりイカンカッタと言ったりします。しかし、方言を見わたせば、イカナンダ・イカザッタ・イカンカッタという言い方がある、というだけでは、あまりおもしろくありません。「どこで」それらの言い方が使われているか、ということが知りたくなるはずです。

(1) 語形と地名

このような方言の語形と使われている場所をむすびつけるにはいろいろな方法があります。たとえば、次のように～地方のように示すことも可能です。

イカナンダ：近畿・中部・中国・四国・北陸地方

イカザッタ：中国・四国・九州地方

イカンカッタ：近畿・北陸地方

これ自体誤りではありませんが、あまりにおおざっぱです。中国・四国はイカナンダとイカザッタが重複しているわけですが、どのあたりが境界なのかよくわかりません。北陸のイカナンダ・イカンカッタでも同様です。

もっと細かくそれぞれの地名で示せば正確になると考えられますが、どうでしょう。

ーナンダ	富山県西礪波郡福岡町福岡	ーザッタ	広島県山県郡大朝町字間所
ーナンダ	岐阜県大野郡白川村鳩谷	ーザッタ	山口県阿武郡須佐町下三原上
ーナンダ	福井県丹生郡越前村蒲生	ーザッタ	鳥取県東伯郡大栄町大字由良宿
ーナンダ	京都府竹野郡丹後町肯安	ーザッタ	岡山県新見市菅生西谷
ーナンダ	長野県北安曇郡小谷村大字中	ーザッタ	愛媛県越智郡上浦町井ノ口
ーナンダ	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条東村	ーザッタ	香川県三豊郡豊中町大字下高野字南部落
ーナンダ	島根県鹿足郡津和野町万町	ーザッタ	福岡県遠賀郡芦屋町大字山鹿字柏原
ーナンダ	鳥取県岩美郡岩美町浦富	ーザッタ	大分県南海部郡宇目町千束
ーナンダ	兵庫県美方郡温泉町湯	ーザッタ	宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町三ヶ所箕原
ーナンダ	岡山県苫田郡上斎原村本村	ーザッタ	愛媛県東予市周布
ーナンダ	広島県高田郡吉田町柳原	ーザッタ	徳島県三好郡山城町寺野
ーナンダ	香川県丸亀市本島町尻浜	ーンカッタ	新潟県佐渡郡相川町下相川
ーナンダ	徳島県美馬郡穴吹町口山宇田方	ーンカッタ	富山県礪波郡利賀村利賀
ーナンダ	滋賀県伊香郡西浅井町塩津浜	ーンカッタ	福井県武生市上大坪
ーナンダ	三重県員弁郡藤原町坂本	ーンカッタ	長野県小県郡真田町真田
ーナンダ	大阪府豊能郡能勢町吉野	ーンカッタ	長崎県上県郡上対馬町大字西泊浦浜
ーナンダ	静岡県磐田郡水窪町地頭方有本	ーンカッタ	島根県遠摩郡仁摩町大字仁万港区
ーナンダ	愛媛県西宇和郡伊方町湊浦	ーンカッタ	山口県阿武郡須佐町下三原上
ーナンダ	高知県安芸郡東洋町白浜	ーンカッタ	広島県佐伯郡大野町塩屋
ーザッタ	島根県隠岐郡五箇村大字北方字岳野	ーンカッタ	岡山県玉野市宇野

-ンカッタ 徳島県徳島市蔵本町
 -ンカッタ 福井県大飯郡大飯町本郷
 -ンカッタ 愛知県愛知郡東郷町和合字北紋谷

-ンカッタ 大阪府泉南郡阪南町鳥取
 -ンカッタ 三重県志摩郡大王町波切
 -ンカッタ 宮崎県東臼杵郡北浦町大字古江字地下

かえってわかりにくくなりました。地名を聞いて、すぐに場所と結びつけるのは容易なことではありません。

地名を用いることには別の問題もあります。地名というものは変わってしまうことがあります。国立国語研究所の現在の所在地は北区西が丘ですが、以前は北区稲付西山町といっていました。同じ場所なのですが、住居表示が変わってしまったわけです。最近では「平成の大合併」などと言われ、ここ10年くらいで大幅に地名が変わってしまう可能性があります。変更当初はよいのですが、しばらくすると古い地名はわからなくなってしまいます。

(2) 語形と経度緯度

もっとも正確には経度・緯度を使えばよいということになります。経度緯度をもって土地を示せば正確にかつ詳しく、またほぼ永久にその場所が指定できます。(詳細に見れば、地殻変動により場所が動くことはありますが、通常問題になることはありません。)

	東経	北緯		東経	北緯
-ナンダ	136.93523	36.70864	-ザッタ	133.47647	35.06714
-ナンダ	136.90199	36.26700	-ザッタ	133.03928	34.26253
-ナンダ	136.01553	36.03417	-ザッタ	133.68391	34.15642
-ナンダ	135.10184	35.71350	-ザッタ	130.66917	33.89556
-ナンダ	137.91147	36.79597	-ザッタ	131.66750	32.85281
-ナンダ	138.36961	35.82706	-ザッタ	131.20923	32.67928
-ナンダ	131.72208	34.46597	-ザッタ	133.08250	33.91014
-ナンダ	134.32631	35.58692	-ザッタ	133.74872	33.97208
-ナンダ	134.49000	35.55336	-ンカッタ	138.23924	38.03928
-ナンダ	133.86964	35.28636	-ンカッタ	137.02901	36.45306
-ナンダ	132.72511	34.67514	-ンカッタ	136.23167	35.88011
-ナンダ	133.76086	34.38336	-ンカッタ	138.33034	36.44519
-ナンダ	134.12025	34.02003	-ンカッタ	129.48042	34.65358
-ナンダ	136.16908	35.51558	-ンカッタ	132.99116	36.10822
-ナンダ	136.47125	35.17647	-ンカッタ	131.62430	34.61408
-ナンダ	135.47975	34.98636	-ンカッタ	132.26750	34.28139
-ナンダ	136.85361	34.93183	-ンカッタ	133.93933	34.50078
-ナンダ	132.35806	33.48706	-ンカッタ	134.52122	34.07428
-ナンダ	134.29611	33.54103	-ンカッタ	135.62425	35.47697
-ザッタ	133.22945	36.28742	-ンカッタ	137.05547	35.09686
-ザッタ	132.46651	34.77950	-ンカッタ	135.23639	34.34522
-ザッタ	131.62430	34.61408	-ンカッタ	136.86095	34.28033
-ザッタ	133.74475	35.47786	-ンカッタ	131.82330	32.70903

これは、たしかに正確かもしれませんが、さらにわかりにくくなってしまいました。

2. 方言を地図にする

地図を使えば、語形と場所の関係をもっともわかりやすく示すことができます。地図にして、それぞれの語形が使われている場所を示すのです。わかりやすいと同時に正確に場所が指定できます。このようにして方言の分布を表した地図は「方言地図」とか「言語地図」と呼ばれます。

いま、ひとことに「方言地図」と言いましたが、地図としての表現方法にもいろいろな方法があります。

(1) 語形記入法

使われている場所に語形を記入する方法です。手順が簡潔でよさそうなのですが、記入する語形が場所をとること、また、分布の様子が把握しづらくなるなどの欠点があります。図1は「(行か) なかった」にあたる各地の語形を地図上に記入してみたものです。とても分布がわかるものではありません。

(2) 記号法

語形を記号に置き換えて地図にする方法です。国立国語研究所が編集している方言地図には『日本言語地図』『方言文法全国地図』という2種類の地図がありますが、これらはこの記号法を用いています。また、このような全国図のほかに地域ごとの方言地図が各地で編集されていますが、それらの多くもこの記号法を採用しています。図2は『方言文法全国地図』から「(行か) なかった」を簡略にして挙げたものです。実は、図1も図2も元のデータは同じです。しかし、図2の方が、はるかにわかりやすくなりました。

記号法の地図には地図と凡例が用意されています。凡例は語形と記号の関係を示す部分です。多くの場合、この凡例と地図がセットで方言地図になっています。

一般の地図と方言地図の大きな違いは、語形を記号に置き換える手順にきまりがないことです。一般の地図では郵便局は「〒」のマークで、小中学校は「文」のマークで表示するという約束がありますが、方言地図にはこのようなきまりはありません。

これは、ちょっと聞くと不思議に思われるかもしれません。しかし、何を対象とするかということの数（「行かない」「行かなかった」「とうもろこし」…）と、それぞれの対象で現れる語形（イカナイ・イカン・イカヘン…、イカナカッタ・イカナンダ・イカザッタ…）の数を考えたなら、全体としては、それらをかけあわせた無限に近い語形が現れてくることがわかります。ですから、そのようなきまりは作れないのです。

(3) 塗りつぶし法

塗りつぶし法は、語形が用いられる地域を塗りつぶして表現する方法です。現れる語形が比較的少ない場合にはわかりやすくよいのですが、語形が多くなったり、分布が錯綜するとこの方法を適用するのは難しくなります。図3は、明治時代の国語調査委員会による「(行か) なかった」の地図です。『方言文法全国地図』からさかのぼること約80年になります。方言地図の作図法が確立していなかった時代の苦勞がしのべれます。

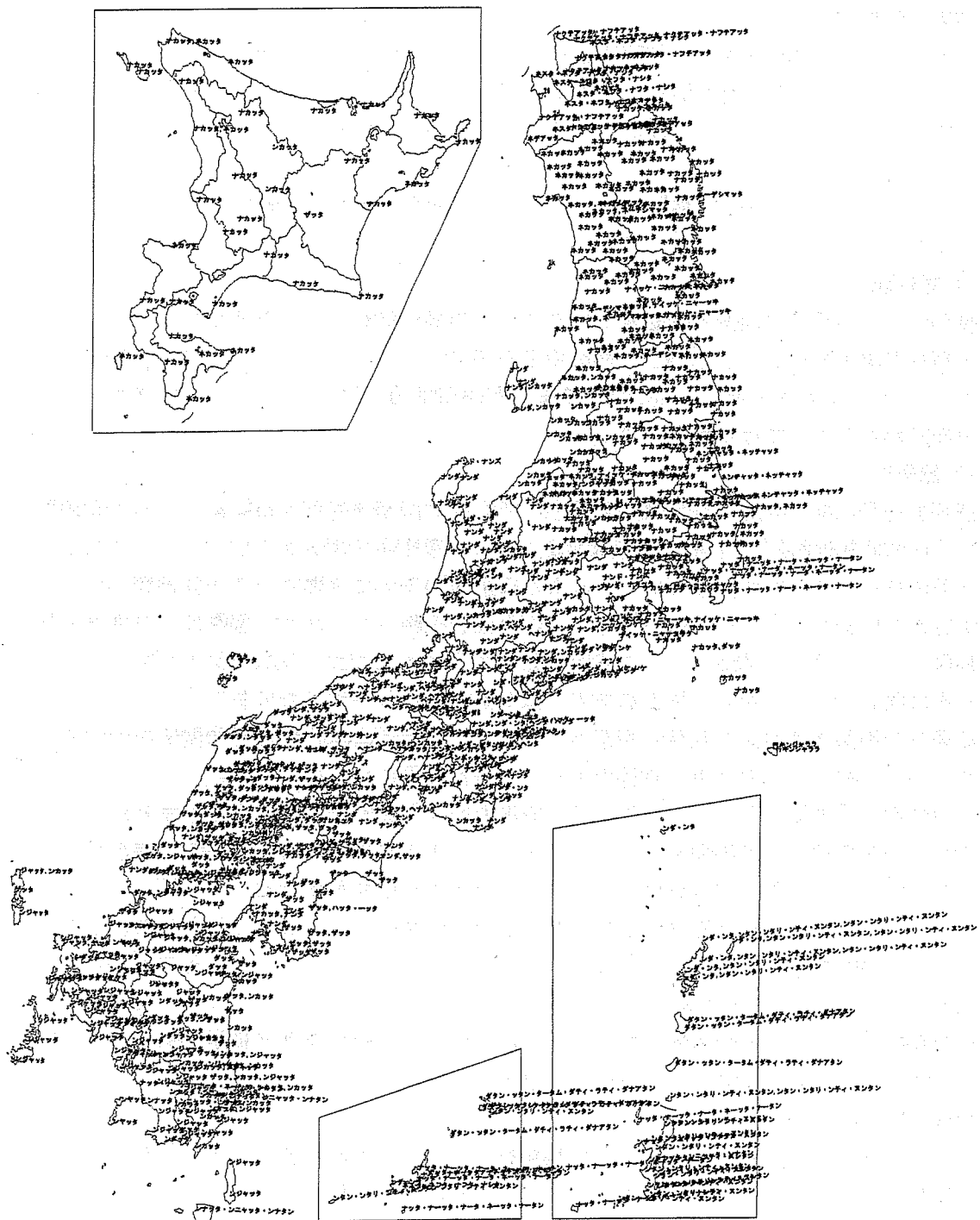


図1 「(行か)なかった」の各地の語形

否定過去（行か）なかった 『方言文法全国地図』第4集151図より

- ナカッタ類
 - ナカッタ
 - ネカッタ
- ナダ類
 - ナダ
 - ヘナダ
 - ナド・ナズ
- ンカッタ類
 - ンカッタ
 - ヘンカッタ
- ザッタ類
 - ザッタ
 - ジャッタ
 - ヤッタ
 - ダッタ
 - ハッタ・ーッタ
- ンジャッタ類
 - ンジャッタ
 - ンダッタ
 - ンヤッタ
 - ヒンヤッタ
- ナクテアッタ類
 - ナクテアッタ・ナフテ
アッタ
 - ネデアッタ
- ナイツケ類
 - ナイツケ・ニヤツキ
 - ノーツケ
 - ンケ
- ンダ類
 - ンダ・ンタ
 - ヘンダ・ヘンタ
- ンナッタ・ンニヤッタ
・ンナタン
- ナッタ・ナーッタ・ナ
ータ・ネーッタ・ナー
タン
- ネスタ・ネフタ・ナフ
タ・ナンタ
- ネーデシマッタ
- ネンチャッタ・ネツチ
ヤッタ
- 行キッコナシチャッタ
- 行キンジャラ
- ダタン・ツタン・ター
タム・ダティ・ラティ
・ダナアタン
- ンタン・ンタリ・ンテ
ィ・ヌンタン

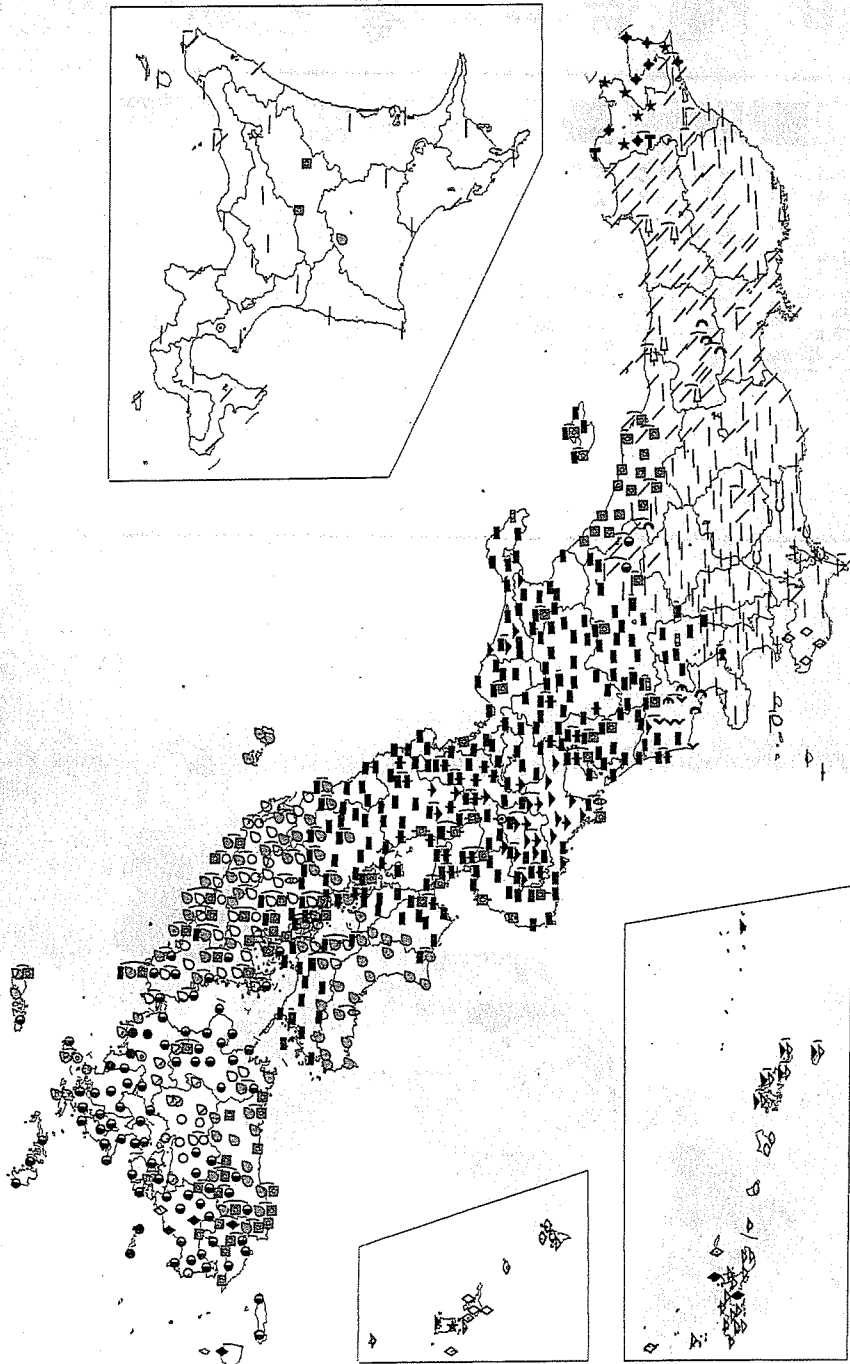


図2 (行か) なかった

8

圖布分ノ等「た」かな「だんな」

方ヒ云ノ消打

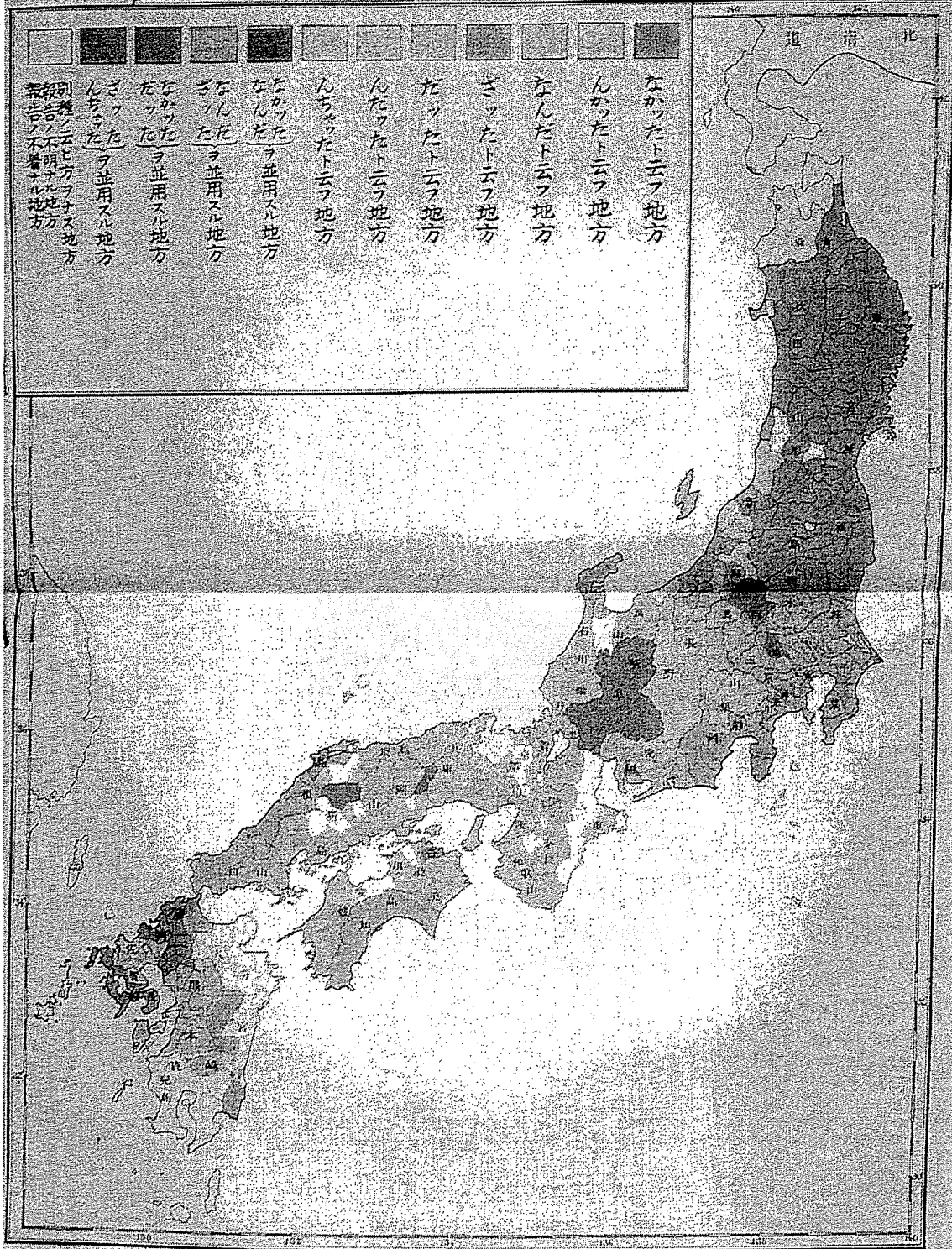


図3 ~なかつた (国語調査委員会：明治時代)

4. なぜ方言地図を作るのか

ここまでの話で方言地図というものがどういうものか、だいたい理解いただけたのではないかと思います。次の話題の「方言地図の作り方」で詳しく説明されるはずですが、方言地図というものは作るのに結構な手間が必要です。それではなぜ、そのような手間をかけて方言地図を作ることが必要なのでしょうか。

(1) 分布を知る

何と言っても、地図にすることにより一目で分布が見られることです。漠然とこれこれの言い方はこのあたりにある（はずだ）と理解されていたものが地図にすることで一気に全体が把握できるようになります。まさに「百聞は一見にしかず」といったところでしょうか。方言地図作りの醍醐味です。しかし、単に「一見にしかざる」楽しみを得ようとして方言地図を作っているわけではありません。

(2) 分布の解釈

方言地図はいろいろな項目を扱っていますが、まったく同じ分布を示すものはありません。すべてが違ってきます。とは言っても、てんでばらばらに語形が各地に散らばっているものではなく、分布の背景にはそれを支える原理が働いています。それを読みとること——地図の「解釈」と呼ばれます——が重要なのです。

例えば、同じような語形がかけはなれた地域に見られることから、それらは中央の古い形の名残であると考えることがあります（周圏分布：図6）。

反対に、かけはなれた地域に類似の語形が見られても、別個に起きた自然な変化による結果であることを読みとる場合もあります（図7）。

さらには、それぞれの地図が表現する内容の言語学的性質を分析することで変化の細かな過程を地図上で探ることもあります。

さまざまな方向から地図は解釈されます。方言学や言語学の向上のためにどうしても方言地図は必要なのです。日本には『日本言語地図』『方言文法全国地図』という大きな全国レベルの方言地図が存在します。そのことにより日本の方言学は、世界的に見ても高いレベルに到達することができました。これは誇りにしてよいことです。学問レベルの高さは、国民文化の高さにつながります。そのような高いレベルの研究を支えるのが方言地図なのです。

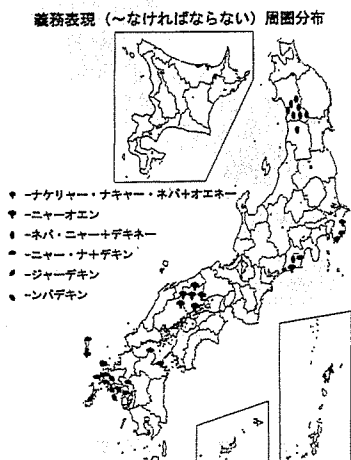


図6 周圏分布

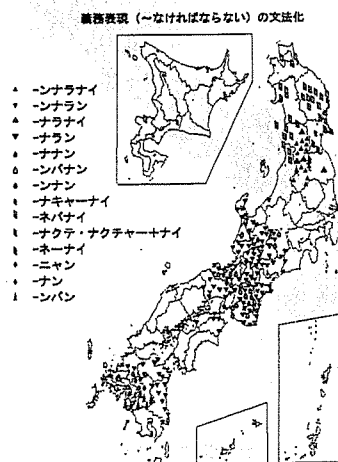


図7 個別の変化

方言地図の作り方

三井はるみ

ここでは、現在国立国語研究所で刊行中の『方言文法全国地図』を例にとって、方言地図作成のための調査から出版までの流れをお話しします。

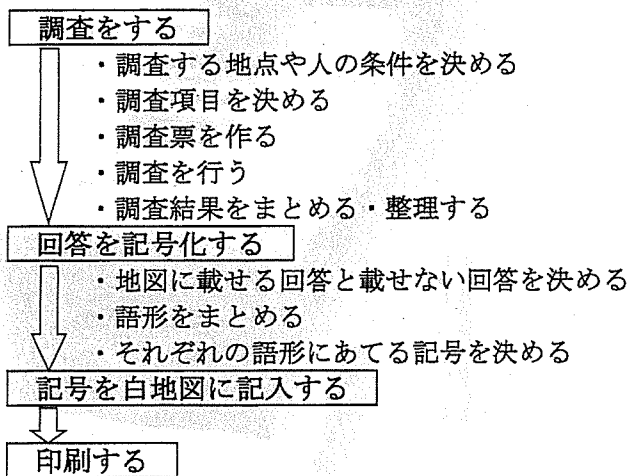
1. 『方言文法全国地図』とは

国立国語研究所編『方言文法全国地図』（財務省印刷局刊）は、活用、助詞、助動詞などの文法的事象が、全国の方言でどのように言われているかを調査して地図化した、方言地図集です。全6集の予定で、1989年から刊行が始まり、2003年1月現在第5集まで刊行されています。最終集の第6集は、2005年3月刊行の予定です。各集は、約50面の地図と解説書から構成されています。

この冊子の表紙の裏に、第5集までの地図のタイトルの一覧をあげてあります。また、実物は今日の会場に展示してありますので、ご覧ください。

2. 調査から地図出版までの流れ

『方言文法全国地図』のように、語形を記号に置き換えて示すタイプの方言地図の作成には、おおむね次のような段階があります。



3. 調査をする ーどんなことばをどうやって調べたかー

この地図のための調査は、1979年から1982年にかけて行われました。全国807の調査地点（最北端は北海道稚内市、最南端は沖縄県八重山郡竹富町波照間）で、原則として各地点1名の話者の方に、調査員が現地で直接お会いして質問をし回答を得ました。調査員は、国語研究所の研究者と全国の方言研究者、約70名です。

話者の方は、原則として大正末年（1925年）以前の生まれで、その土地で生まれ、その土地を長い間離れたことがなく、現在もその土地に住んでいる男性の方です。その方た

ちに、日常話すことばのうち、特に、くつろいだときやごく親しい人と話すときに使う土地のことばをたずねました。実際の言語生活では、一人の人が方言と共通語を使い分けていますし、年配の方と若者ではことばに違いがあります。この調査では、各地の方言の中でも比較的古い層のことばに的を絞りました。

調査したのは、文法事象に関する267の項目です。これらについて全国统一の調査票を用いて質問をしました。多くは、共通語を示して方言に直してもらい、「翻訳式」の質問です。(例:「もっと早く起きればよかった」と言うときの「起きれば」のところはどのように言いますか。) 調査者は話者の答えを調査票に記入します(図1)。話者がことばに対して加えるいろいろな説明や、話者の経歴なども記入します。これらは後に地図の編集や解釈をする時の手がかりの一つになります。調査の様子の一部は録音でも記録されています。

調査の結果は、1項目につき1枚のカード(縦77mm×横130mm)に転記して、調査者から国語研究所に送られてきます(図2)。調査票は調査者の手元に残ります。国語研究所に集まったカードは項目ごとに分類して、カードケースに入れて整理されます(図3)。

— 使 役 形 —

075 「孫に庭の掃除をさせる」と言うときの「させる」のところはどのように言いますか。
(「やら」を使った形は採らない)

saŋesɯ

076 「孫を無理に走させる」と言うときの「走させる」はどうですか。
(「走つ」「ハヤハヤム」などは採らない)

koŋaŋesɯ
<若い者、ハカサŋesɯトシ>

077 「孫に窓をあけさせる」と言うときの「あけさせる」はどうですか。

aŋeŋaŋesɯ <アキマキト使>
aŋesaŋesɯ

— 仮 定 形 (1) —

078 「もっと早く起きれば良かった」と言うときの「起きれば」のところはどのように言いますか。

oŋireba
① oŋitto <トシに起>

079 「もっと早く起きれば良かった」と言うときの「起れば」はどうですか。

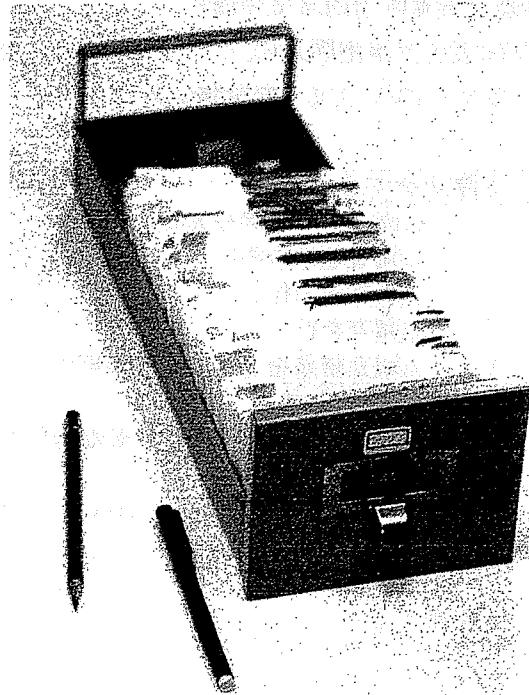
kũreba
<kũtto トシに起>

項目番号	準	地点番号
078	方言文法全国調査 (※)	4869.55

回答(注記)

① oŋireba
② oŋitto (ト) <少>

← 図1 回答を書き込んだ調査票



↑ 図3 分類してカードケースに整理されたカード

← 図2 調査票から転記したカード (6桁の数字は調査地点番号)

『方言文法全国地図』では、記号を決める時に、「見やすさ」とともに、「似た語形には似た記号」をあてるように留意しています。たとえば、第3集126図「起きれば」では、図6のようになっています。語形と記号の各要素がどのように対応しているか、見てとれるでしょうか。

このようにして決めた、一枚の地図に現れるすべての見出し語形と記号の対応の一覧表が「凡例」です（図7）。

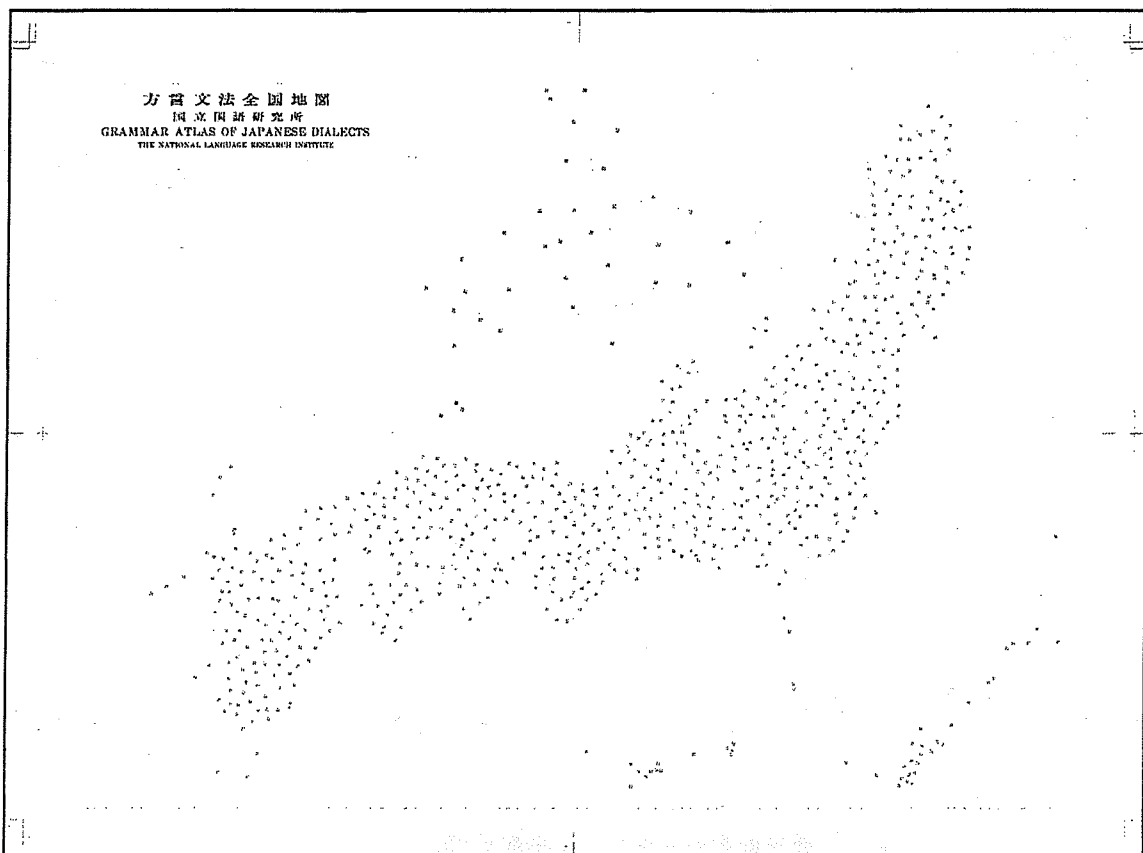
以上の4.～6.は地図を描く準備段階とも言えますが、一つ一つの判断には、言語学的な知識や全国の方言についての広い知見による裏付けが必要なところです。

7. 方言地図を描く —記号を白地図に記入する—

各語形にあてる記号が決まったら、白地図に記入していきます。

図8が白地図です。白地図には調査地点が数字で示されています。基本的には、各地点で回答された語形にあたる記号を、この調査地点の位置に一地点一地点記入していけばいいのですが、少しだけコツがあります。

それは、1地点で複数の語形が回答された場合の記号の置き方です。例えば図1の調査票の078の項目では、2つの語形が回答されています。1地点で3つ以上の語形が回答されることもあります。この場合、地図上では1地点に2つ以上の記号が並ぶことになり、スペースをとるので、時には隣の地点まではみ出してしまふことがあります。これではど



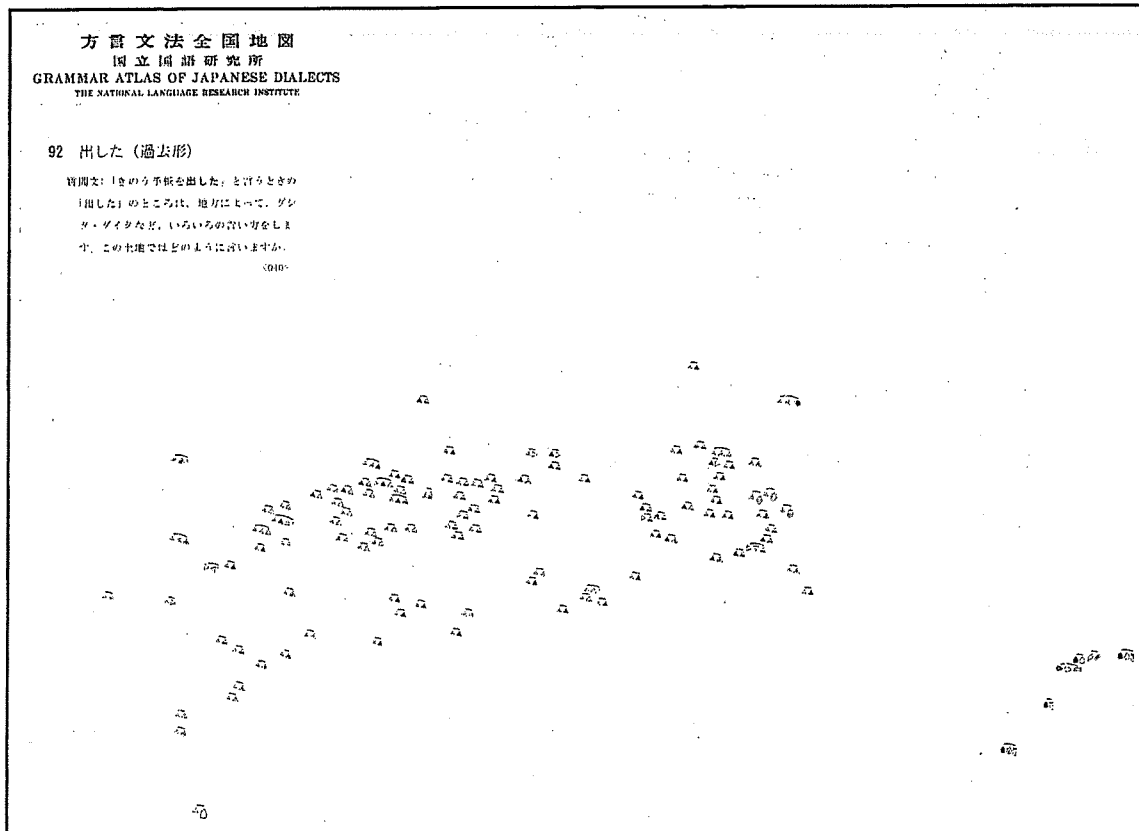
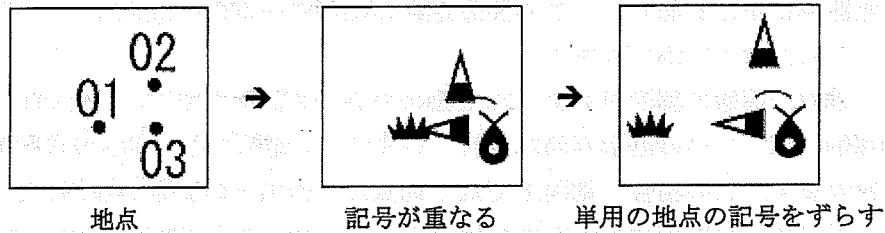
↑ 図8 『方言文法全国地図』の白地図

この地点の回答かわかりにくいですし、記号同士が重なってしまって、分布の様子が見づらくなります。

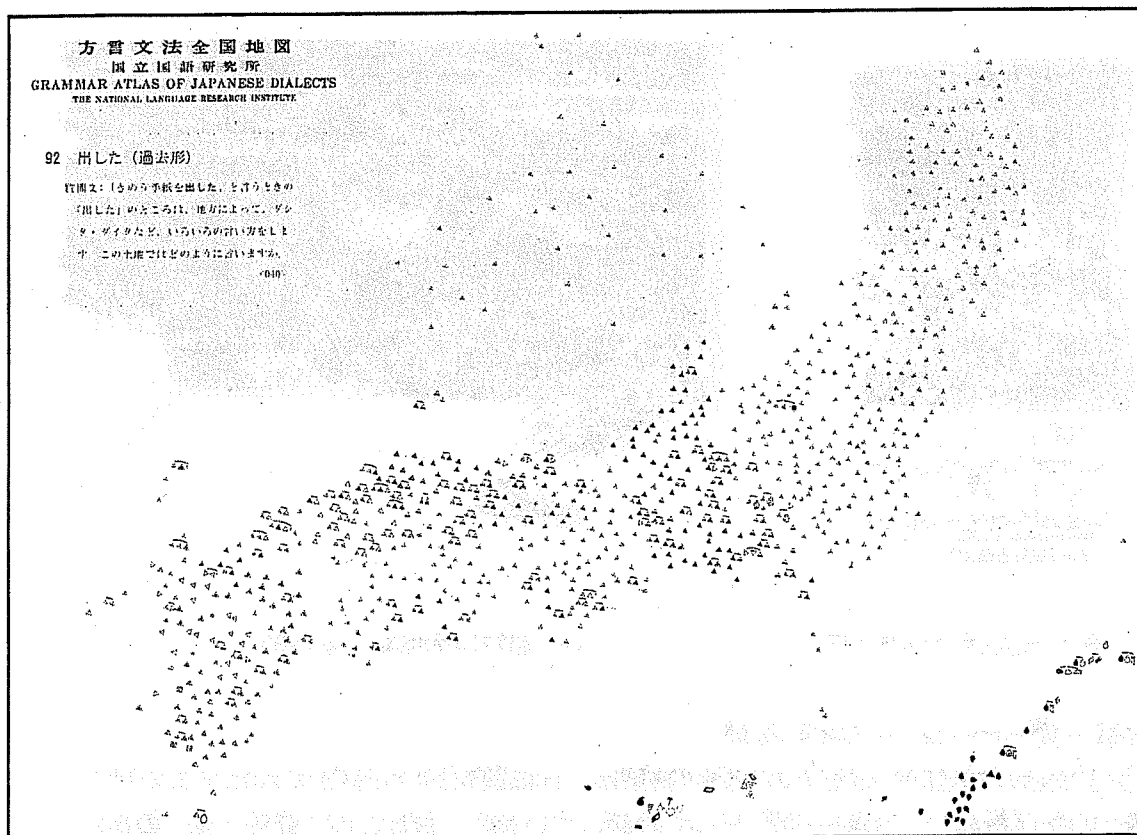
かと言って、1地点1つの回答に限るとしても、どの回答を選べばよいかわかりません。それにそのようにすると、実際に各地点で使われていることばの様子がわからなくなってしまいます。また、記号は調査地点の位置になるべく正確に置くことが望ましいので、その場その場であまりいいかげんにずらすのもよくありません。

そこで『方言文法全国地図』では次のような手順をとっています。

はじめに複数回答(「併用」と呼んでいます)の地点と、単数回答(「単用」と呼んでいます)の地点を分けます。そして、よりスペースをとる併用地点に先に記号を記入し、単用地点には後から記号を記入します。記号が重なってしまう場合は、単用の地点の記号の位置をわずかに、しかも、地点相互の位置関係を保つように気をつけて、ずらして記入します。併用の記号はアーク(∩)で結んで、他の地点の回答と紛れないようにします。(現在のコンピュータによる作図では、併用地点も単用地点も一挙に記号を置いています)



↑ 図9 併用地点のみを記入した地図(92図「出した」)



↑ 図10 完成地図 (92図「出した」)

「ずらし」の方法は同じです。)

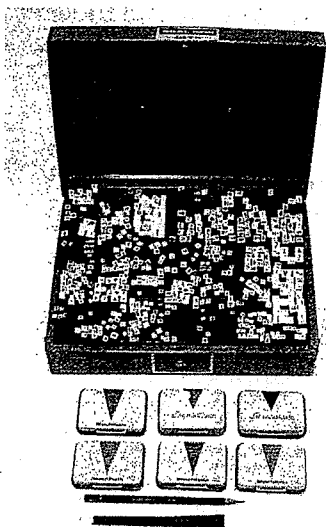
図9が併用回答だけを記入した地図、図10がそれに単用回答を記入した完成地図の例です。

8. 手作業による地図作り

現在『方言文法全国地図』の最終的な作図は、コンピュータを使って行っていますが、第4集(1999年刊)までは、ゴム印とスタンプ台(図11)を使って、一地点一地点手で押印していました(図12)。現在でも草稿段階では手作業による地図が活躍しています。会場には手作業による地図の例を展示してあります。

コンピュータによる地図の作成方法については、後ほど実際にパソコンを操作しながら説明します。

このようにして作成した地図の原稿(コンピュータによって作図した場合はデータも)を印刷所に渡し、数回の校正を経て、印刷物となります。



↑ 図11 ゴム印とスタンプ台



↑ 図12 手作業による押印

9. 資料一覧とホームページでの公開

『方言文法全国地図』のための調査の結果は、ほぼ調査員から報告されたままの形で、各集の別冊『解説』に「資料一覧」として収載しています。またこの「資料一覧」のほか、完成地図の一部や、調査票、地図をコンピュータで作成するためのデータやプログラムを、ホームページ「方言研究の部屋 (<http://www.kokken.go.jp/hogen>)」で公開しています。興味をお持ちの方はぜひご覧ください。

【参考文献】

- 大西拓一郎（1998）『『方言文法全国地図』ができるまで－調査報告カードから地図までの道のり－』『国立国語研究所創立50周年記念研究発表会資料集』
- 国立国語研究所（1989-2002）『方言文法全国地図1～5』財務省印刷局（販売価格：30,000～42,600円）

方言地図を作ってみよう

大西拓一郎

今回のフォーラムでは、皆さんに以下について答えていただくという方法で情報を寄せてもらいました。

- 1 あなたがお使いになれるのはどこの方言ですか。(市町村単位まで結構です。)
- 2 あなたのご年齢は？
a 39歳以下 b 40～69歳 c 70歳以上
以下ではあなたの方言での言い方をお尋ねします。
選択肢にない場合は、dとしてご記入下さい。
- 3 「行かない」を何と言いますか？
a イカナイ b イカン c イカヘン d その他_____
- 4 「(ここは) 静かだ」を何と言いますか？
a シズカダ b シズカジャ c シズカヤ d その他_____
- 5 「とうもろこし」のことを何と言いますか？
a トーモロコシ b モロコシ c トーキミ d その他_____
- 6 「(あれを) 見ろ」を何と言いますか？
a ミロ b ミヨ c ミレ d その他_____
- 7 「読んでしまった」を何と言いますか？
a ヨンデシマッタ b ヨンジャッタ c ヨンデマッタ d その他_____

皆さんからお寄せいただいた回答をもとに、方言地図を描いてみました。

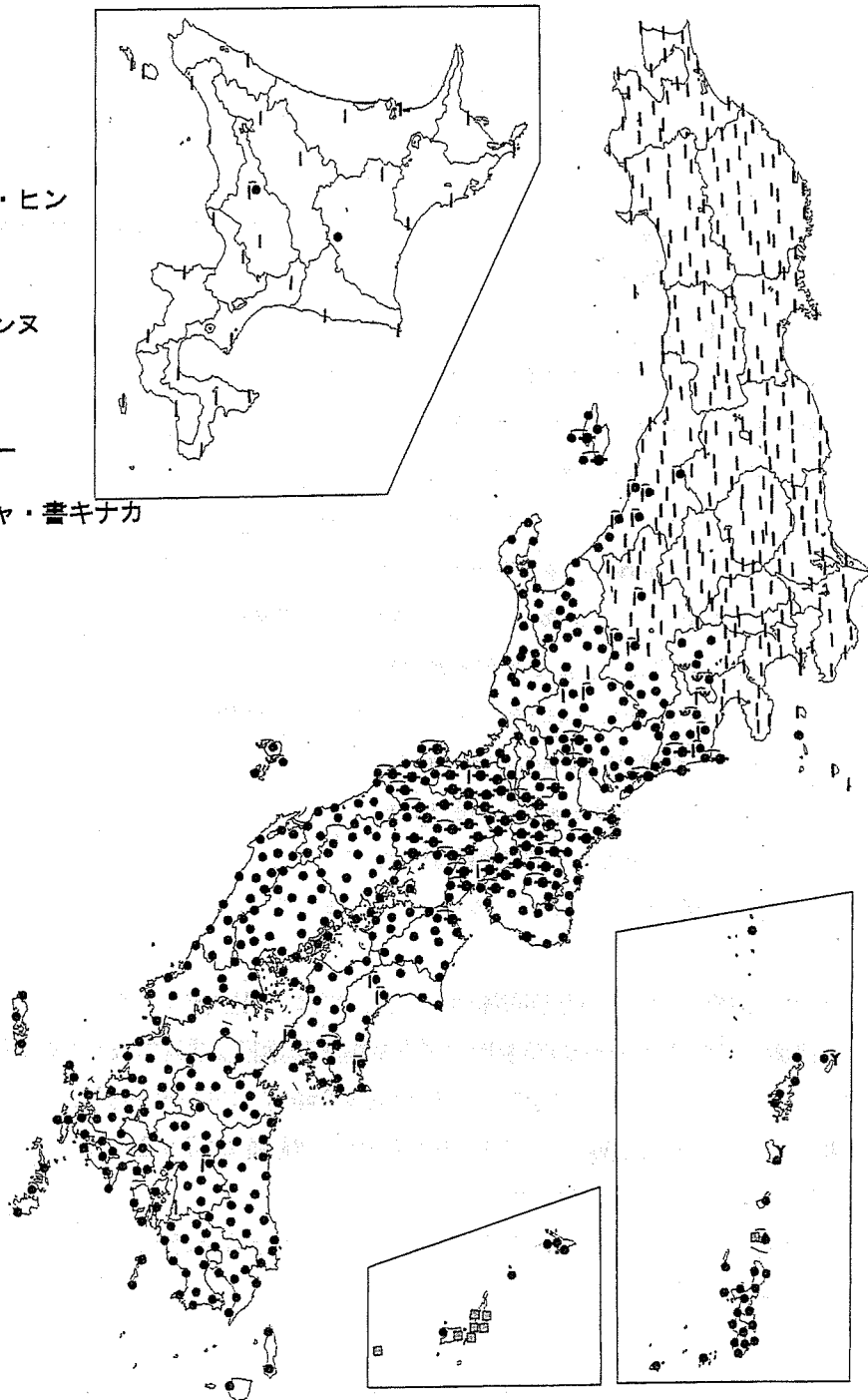
実は、お願いしたそれぞれの項目は、『日本言語地図』『方言文法全国地図』で扱われているものです。この冊子では、次のページから見開きで、左ページにそれらの全国地図(略図)を掲げ、右ページに皆さんのデータに基づく地図を挙げました。左右をあわせ見ることによってそれぞれのようすが見られます。

左と右は同じでしょうか？違うとすればどのような点が異なるでしょうか。皆さんとともに考えてみたいと思います。

注意：皆さんからお寄せいただいた回答は、今回のフォーラムでのみ使うことを約束しています。ほかの機会に利用されることは、ご遠慮いただけますようお願いします。

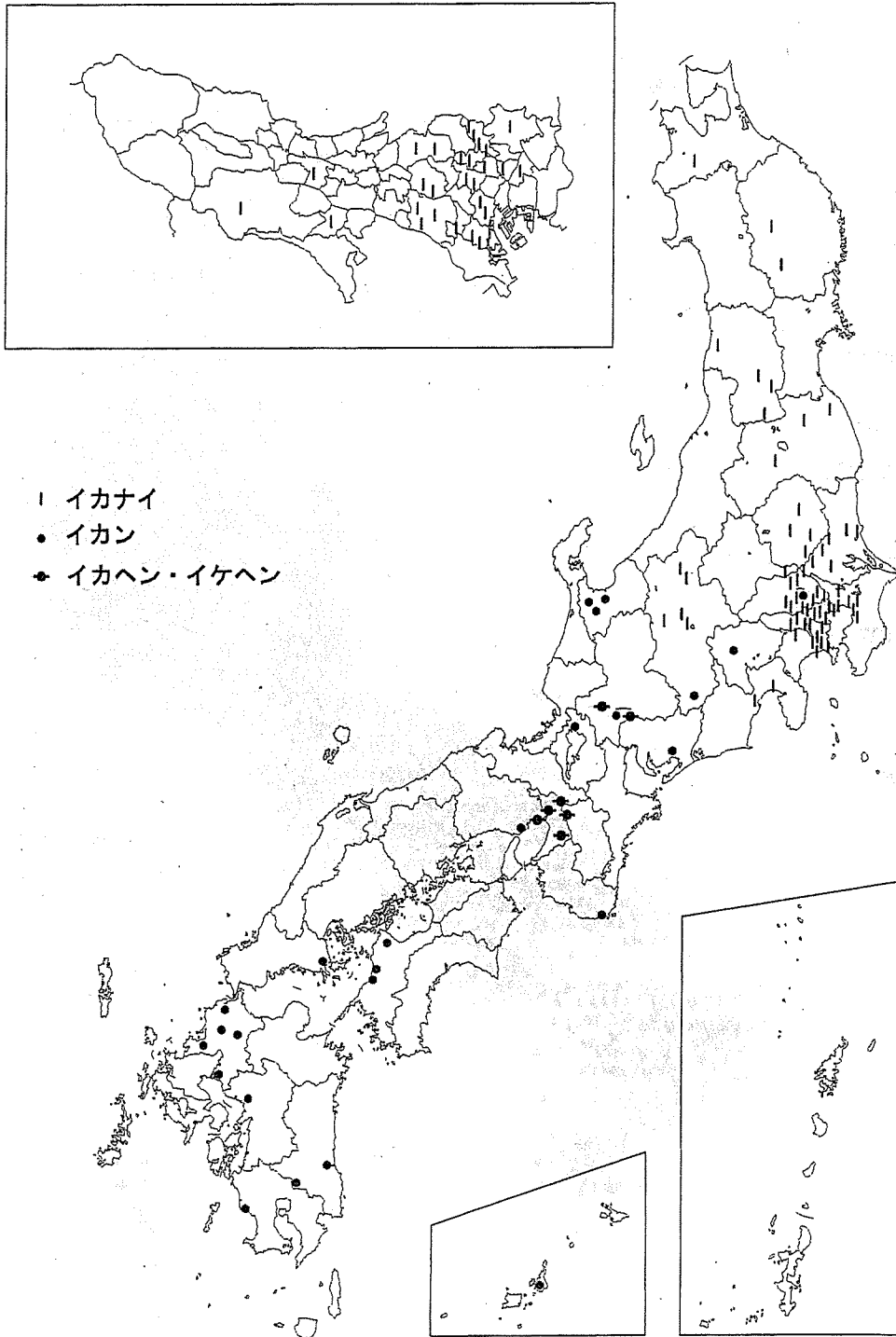
動詞の否定形 (書か) ない GAJ2-80

- | ーナイ
- ーン
- ◆ ーセン・ヘン・ヒン
- ∨ ーノー
- ▣ ーヌ・ヌン・ンヌ
- ージ
- γ 書カイ・書カー
- ▲ 書キンナツキヤ・書キナカ



国立国語研究所『方言文法全国地図』第2集80図より

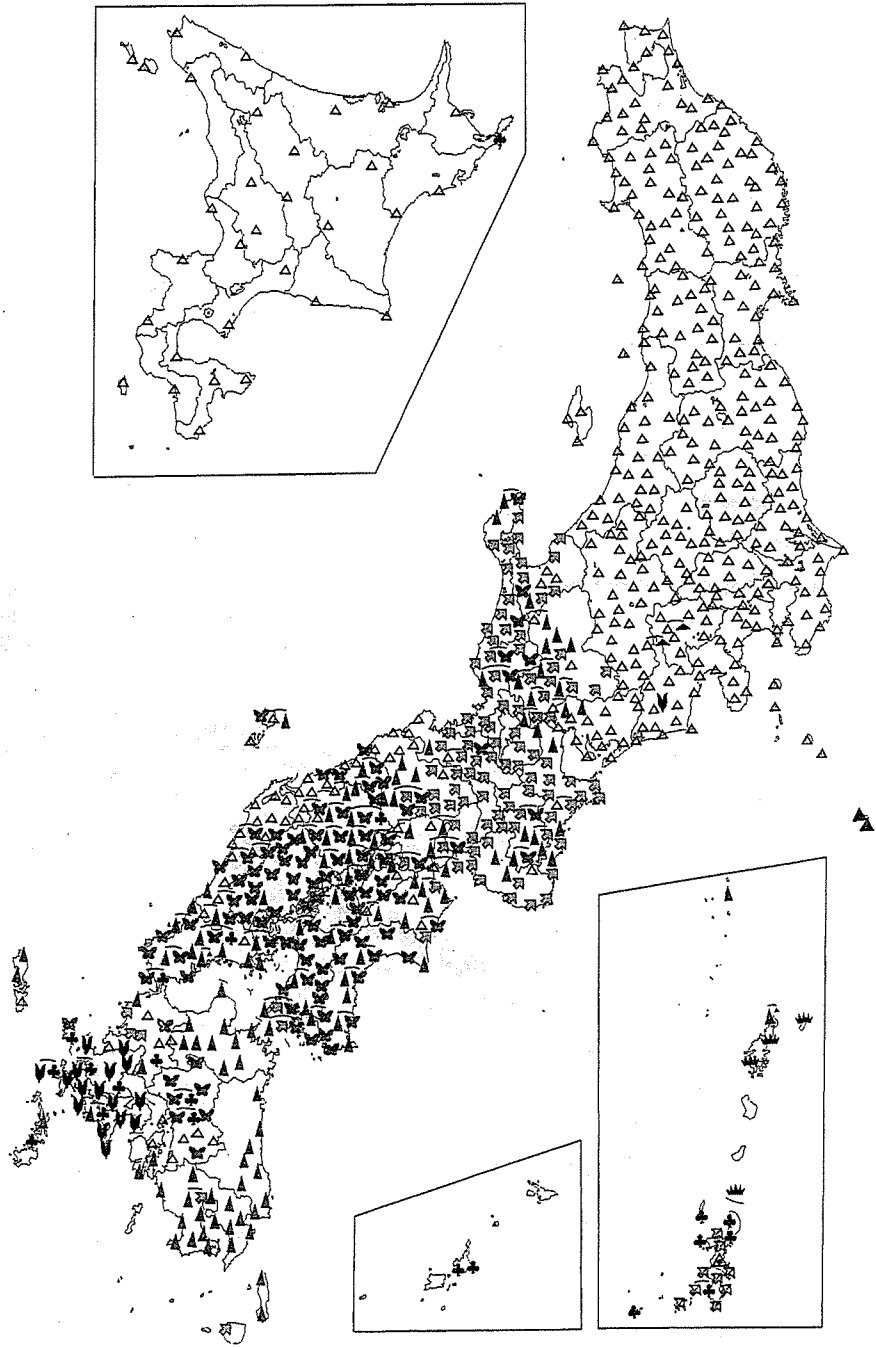
行かない (フォーラム用データ)



フォーラム参加者地図「行かない」※転載等をご遠慮下さい。

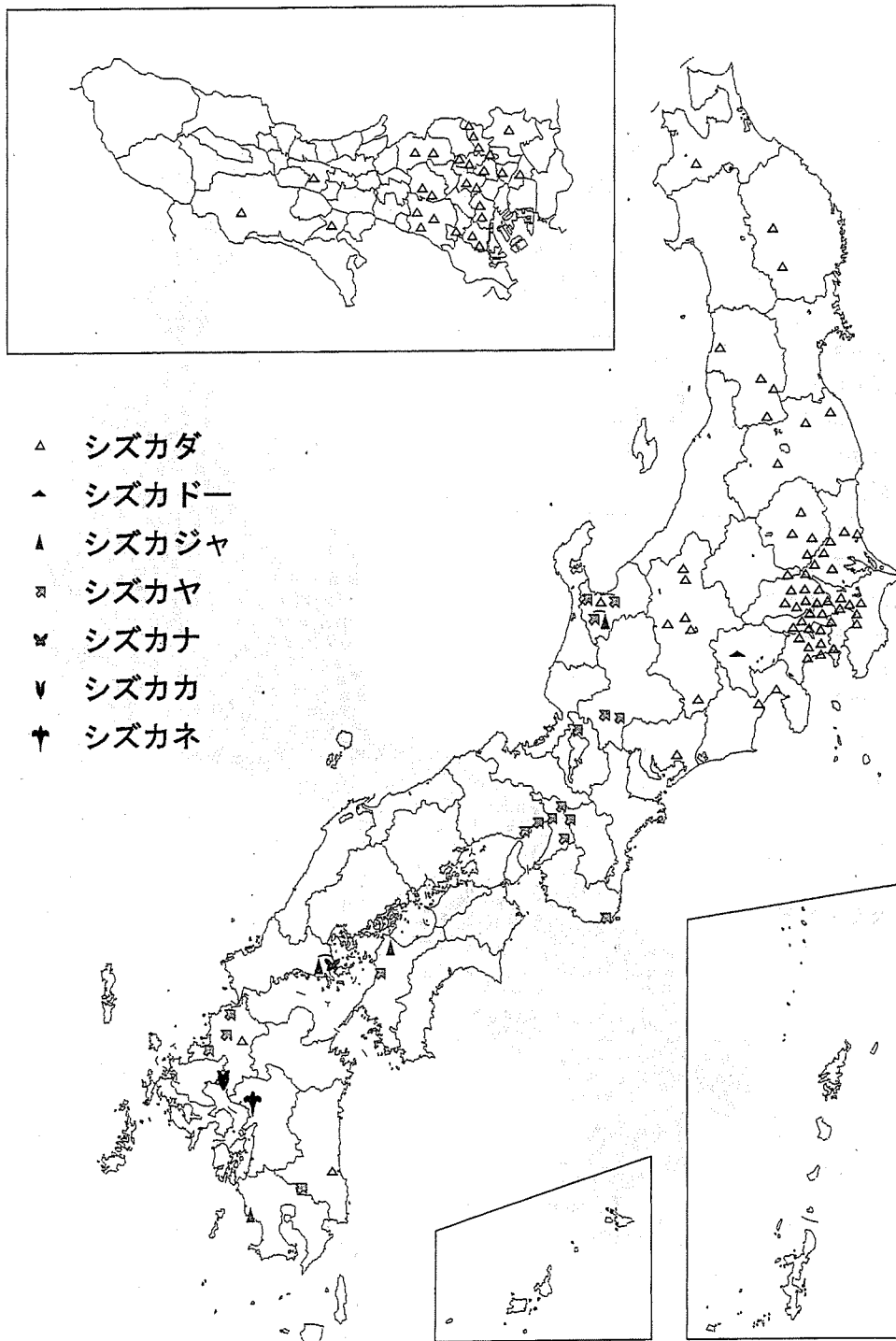
静かだ GAJ3-145

- △ シズカダ
- ▲ シズカダラ
- △ シズカドー
- △ シズカデール
- ▲ シズカジャ
- ▽ シズカヤ
- ▽ シズカヤン
- ▽ シズカナ
- ▽ シズカニアル
- ▽ シズカカ
- ▽ シズカサ—
- ▽ シズカ
- その他



国立国語研究所『方言文法全国地図』第3集 145 図より

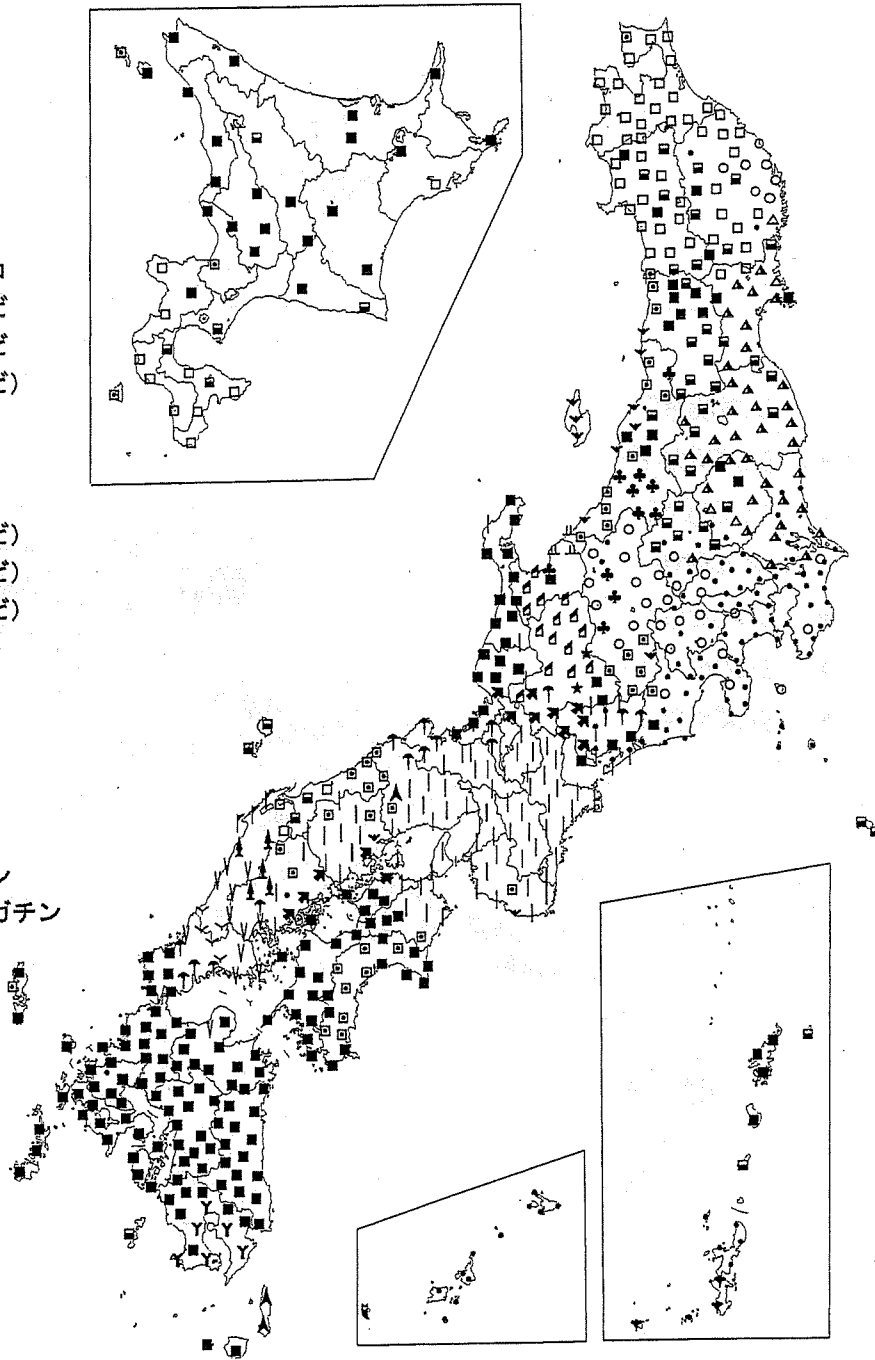
静かだ (フォーラム用データ)



フォーラム参加者地図「(ここは)静かだ」※転載等のご遠慮下さい。

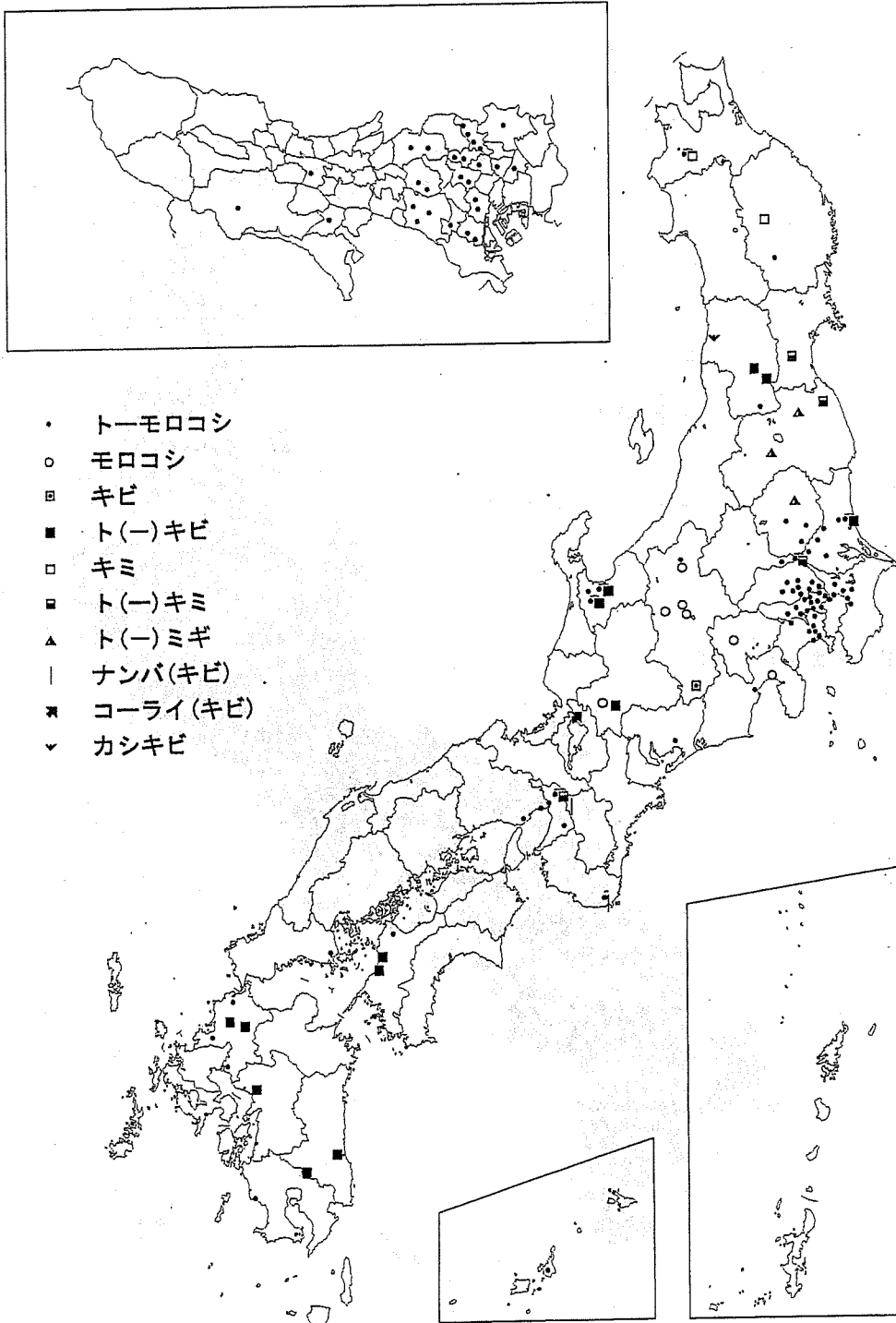
とうもろこし LAJ4-182

- ・ トーモロコシ
- モロコシ
- ◻ キビ
- ト(一)キビ
- キミ
- ◻ ト(一)キミ
- ▲ ト(一)ミギ
- △ ト(一)ムギ
- ⊥ トート(一)コ
- Y ヨメジョトキビ
- ナンバトキビ
- ↑ ナンバン(キビ)
- | ナンバ(キビ)
- γ ナンバギン
- ↓ ナンバト(一)
- ∨ ナンマン(キビ)
- ∨ マンマン(キビ)
- ✱ コーライ(キビ)
- ★ マメキビ
- ✦ ト(一)マメ
- ◻ ト(一)ナワ
- ⊥ マキビ
- ∨ カシキビ
- ▲ タカキビ
- γ グストージン
- ⊥ ンマヌマラタガチン



国立国語研究所『日本言語地図』第4集 182 図より

とうもろこし (フォーラム用データ)

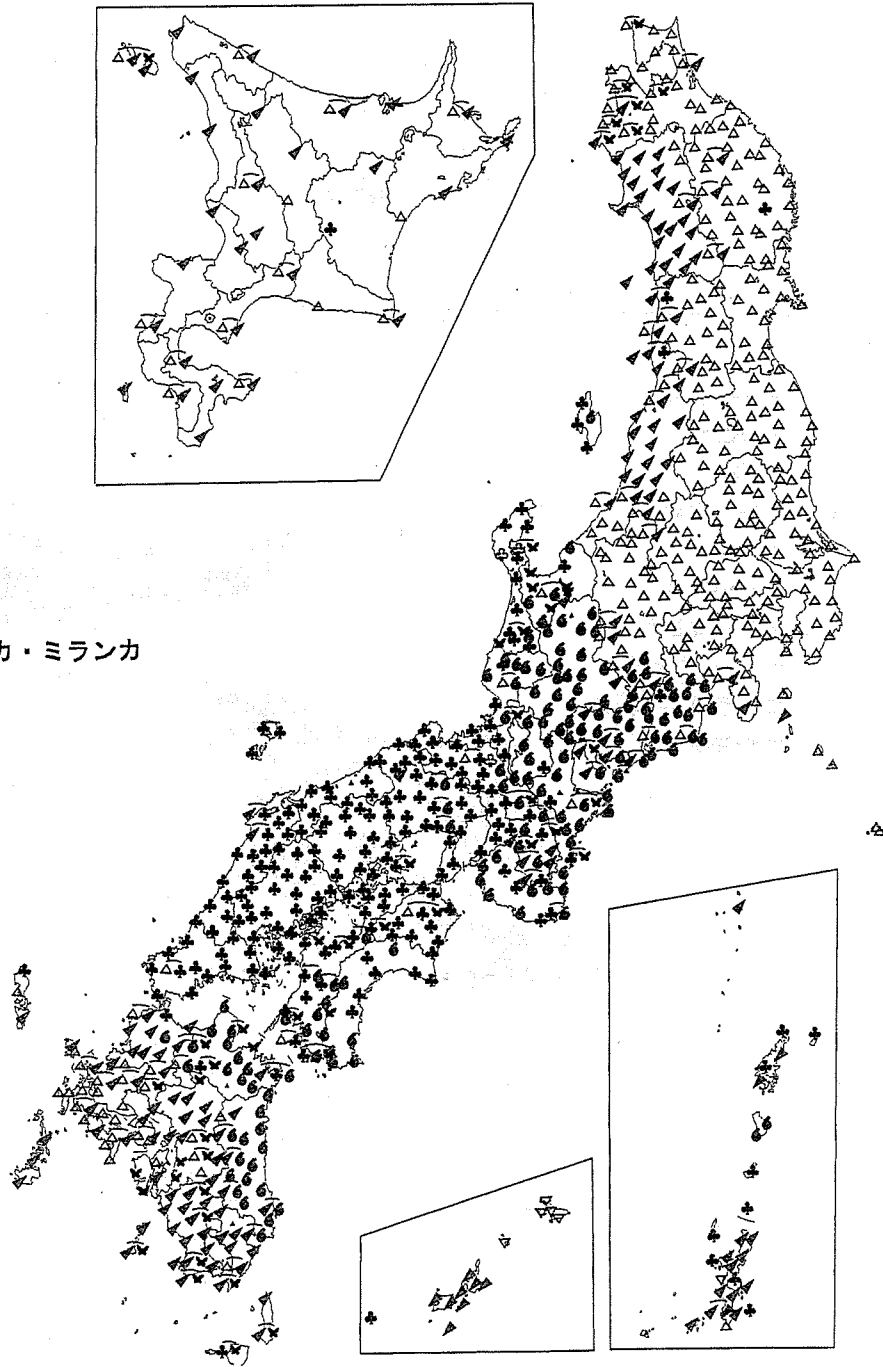


フォーラム参加者地図「とうもろこし」※転載等をご遠慮下さい。

見ろ

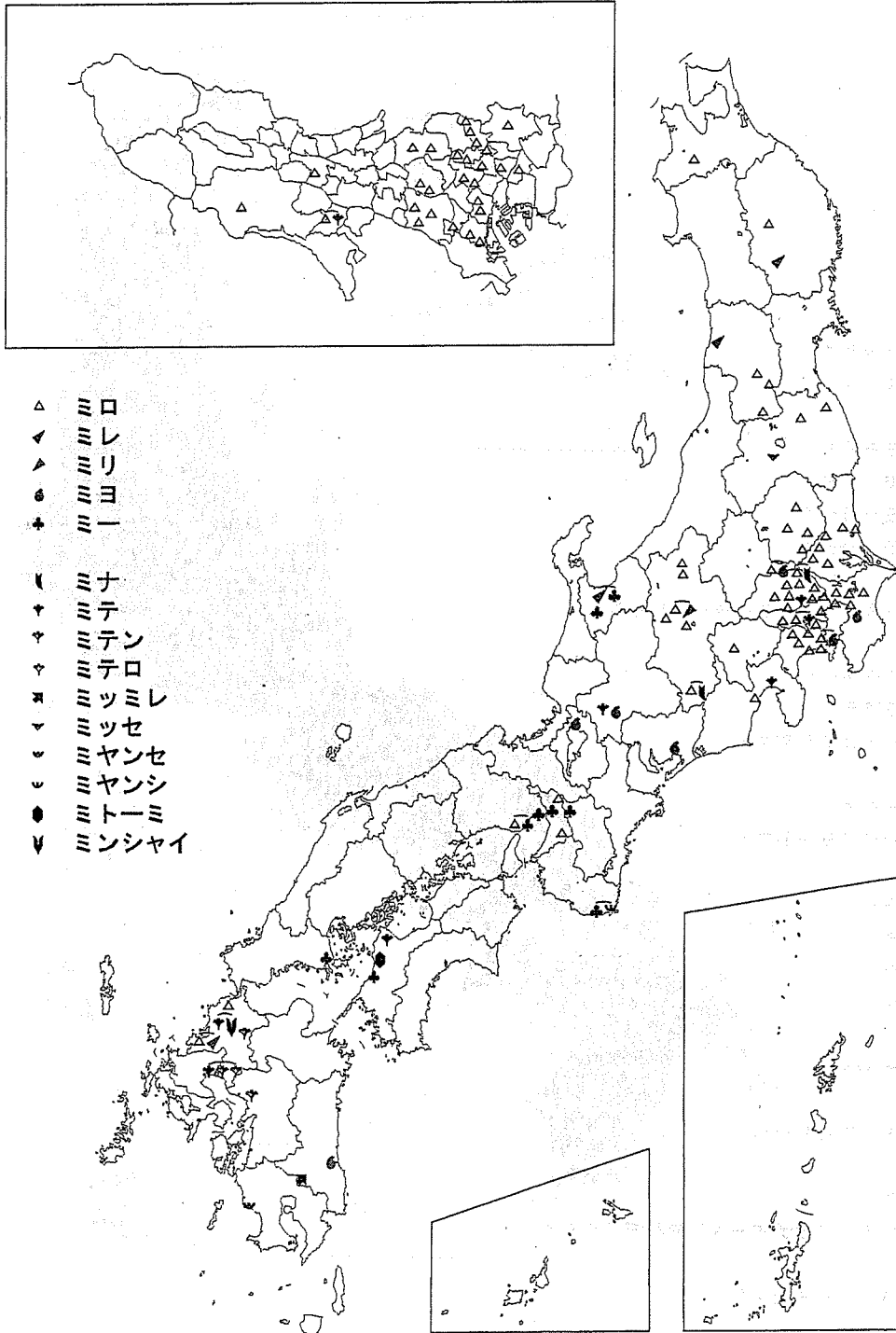
GAJ2-86

- △ ミロ
- ▽ ミル
- ◀ ミレ
- ▶ ミリ
- ⊙ ミヨ・ミヨ
- + ミー・ミ
- ⊕ メー
- × ミンカ・ミナイカ・ミランカ
- ・ その他



国立国語研究所『方言文法全国地図』第2集 86 図より

見ろ (フォーラム用データ)



フォーラム参加者地図「(あれを)見ろ」※転載等のご遠慮下さい。

読んでしまった

GAJ4-205

- ▲ ヨンデシマツタ
- ▼ ヨデシマツタ

- ▮ ヨンデシモ(一)タ
- ◇ ヨーデシモ(一)タ
- ▮ ヨンジシモ(一)タ
- ◇ ヨージシモ(一)タ

- ▮ ヨンシモータ・ヨーシモータ・ヨッシモータ

- ⊖ ヨーデシモートー
- ⊖ ヨンデシモアラ
- ⊖ ユジシマチ・ユミシマチ

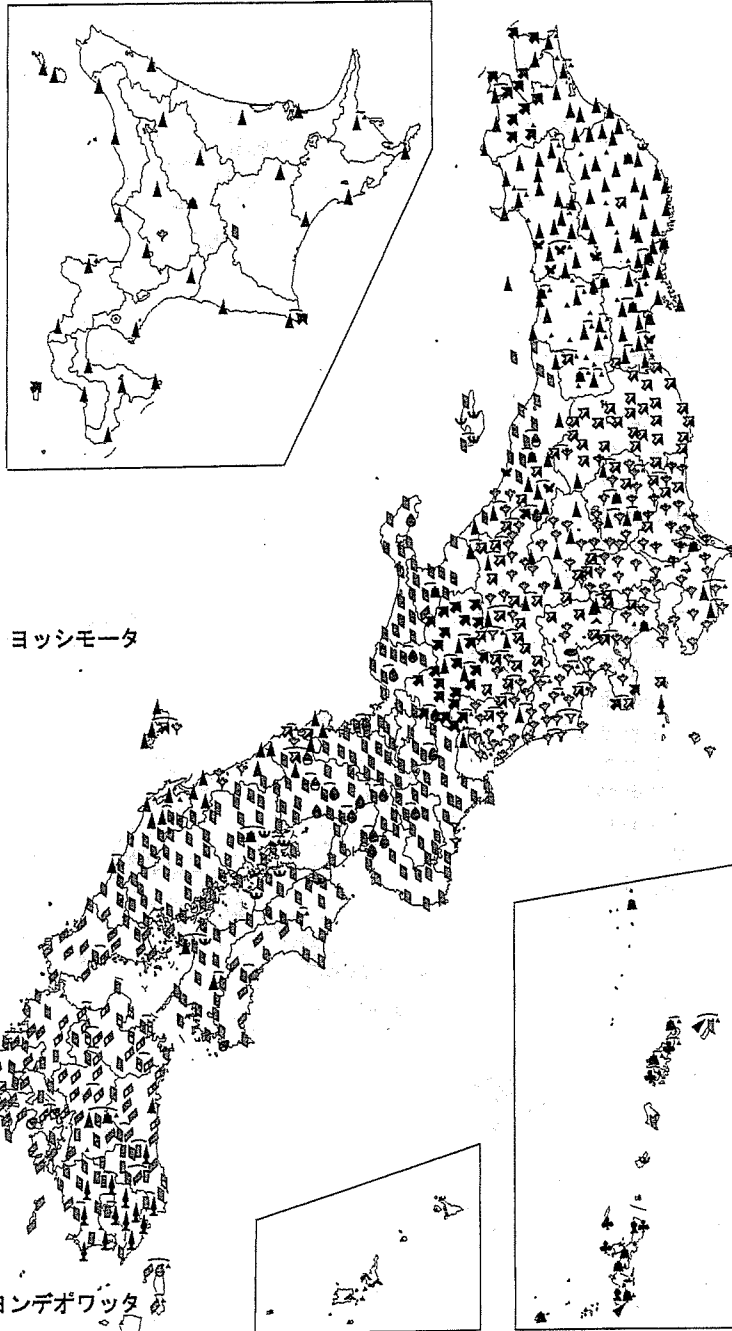
- ✕ ヨンデマツタ
- ✕ ヨンジマツタ・ヨツジマツタ

- ⊖ ヨンデモ(一)タ
- ⊖ ヨンジモ(一)タ
- ⊖ ヨージモータ
- ⊖ ヨンジマツトー

- ▽ ヨンジャツタ
- ▽ ヨンチャツタ
- ▽ ヨンダツタ・ヨツダツタ

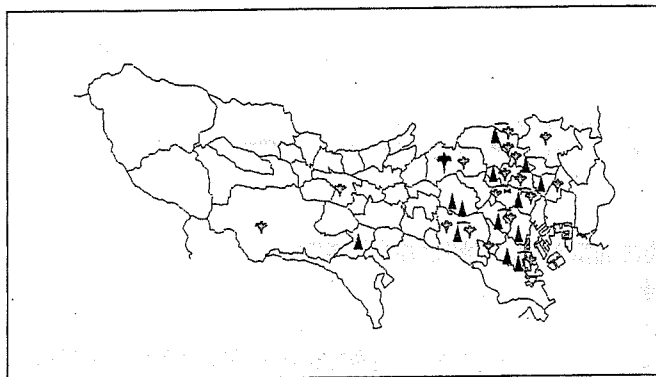
- ▼ ヨミアゲタ
- ▲ ヨミオエタ・ヨミオワツタ・ヨンデゴワツタ
- ▲ ヨミキツタ
- ▼ ヨンデスندا・ヨミスندا
- ▲ ヨミトツタ
- ▲ ユディネ(一)ン
- ▲ ユミハティタン

- ・ その他



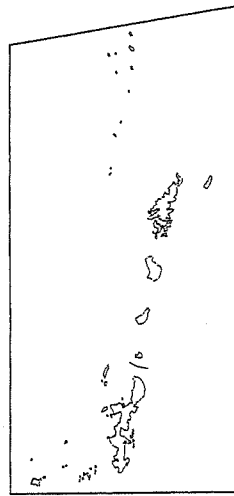
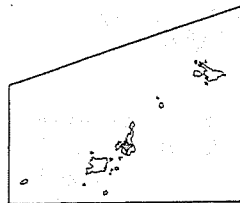
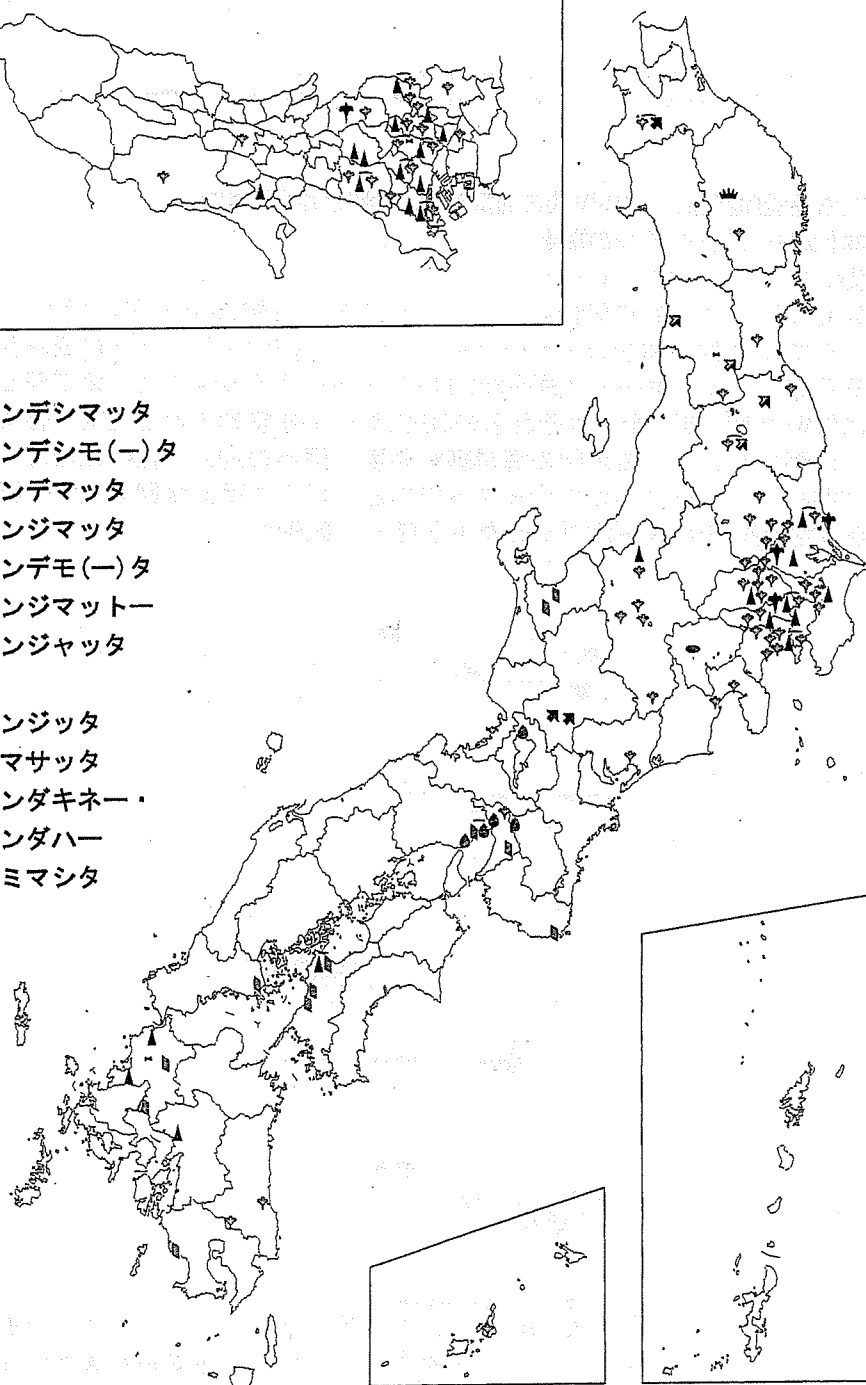
国立国語研究所『方言文法全国地図』第4集 205 図より

読んでしまった (フォーラム用データ)



- ▲ ヨンデシマッタ
- ヨンデシモ(-)タ
- ✖ ヨンデマッタ
- ✕ ヨンジマッタ
- ヨンデモ(-)タ
- ヨンジマッター
- ▽ ヨンジャッタ

- † ヨンジッタ
- ♣ ヨマサッタ
- └ ヨンダキネー
- └ ヨンダハー
- └ ヨミマシタ



フォーラム参加者地図「読んでしまった」 ※転載等をご遠慮下さい。

地図作りのデモンストレーション ——コンピュータで方言地図を作る——

大西拓一郎

大西拓一郎「言語地図作成の電算化—『方言文法全国地図』第5集を例に—」『日本語学』2002年9月号の抜粋です。この文献は http://www2.kokken.go.jp/henkai/dp/gaj_dp_i/onishi_nihongogaku_2002_09.pdf でも閲覧できます。

1. 『方言文法全国地図』(GAJ)作成の電算化—仕様と準備作業—

1.1. 基本仕様・プラグインの開発

①基盤ソフト—イラストレーター

GAJの電算化は、アドビ社の画像ソフト、イラストレータ (Illustrator) 上で行っている。イラストレータでは画像全体をレイヤーと各レイヤー上のオブジェクトの組み合わせとして構成する(図1)。レイヤーとは透明なOHPシートのようなもので、オブジェクトはそのシートに置いた切り紙、全体はそれらのOHPシートを重ねあわせた切り絵のようなものである。地図で言えば、白地図の海岸線・県境、個々の地点に置いた記号、地点番号を示す各文字列などすべてがオブジェクトである。以下では、地図の記号を記号オブジェクト、各文字列をテキストオブジェクトと呼び、区別する。

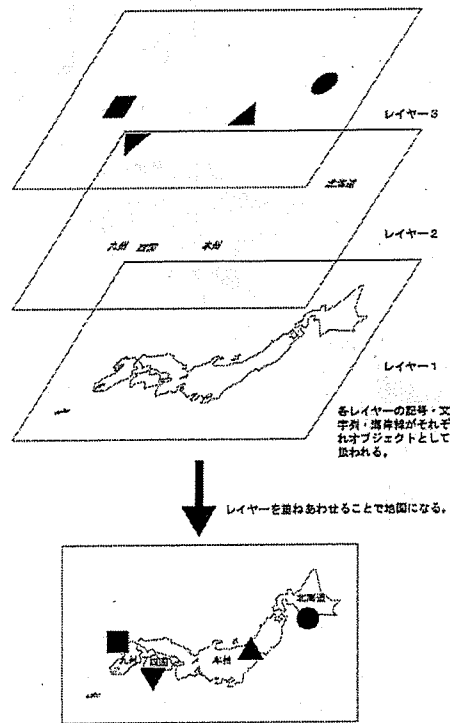


図1 イラストレータの概要

イラストレータを用いるのは、次の利点による。第1点は、ドロー系の代表的画像ソフトであることによる。画像ソフトは、データの扱いにおいてドロー系とペイント系に分かれる。違いは画像を扱うデータの性質で、イラストレータに代表されるドロー系がベクトルデータであるのに対し、(デジカメの画像処理で広く利用される)フォトショップなどのペイント系はビットマップデータである。地理情報学の世界では、前者をベクタ形式、後者をラスタ形式と呼び、区別する。地図一般に関して、どちらが良いかは一概に言えない。GAJのように一定の地点に必要な記号を置くという様式では、ベクタ形式が適合し、拡大・縮小をかけても曲線にギザギザが生じない。

第2点は、イラストレータには、スウォッチと呼ばれる機能が備わっていることであ

る。スウォッチとは、各ファイルの中で記号や色など(正確には塗り)に名称を与えて管理する機能である。スウォッチを使えば、記号がコード化できる。この機能があったから電算化が実現したと言っても過言ではない。

第3点は、印刷業界で広く利用されていることである。ポストスクリプトと呼ばれるファイル形式に基づくことから、印刷所の業務用プリンタとの相性が良い。イラストレータで作ったデータは、版下に近い形で利用できる。

②プラグインの開発

イラストレータは、地図作成を目的としたソフトではない。単体では、自動で地図を描くことはできない。必要な場所に手作業で記号を置いていくことは可能であるが、これでは作業場所を紙上からパソコン上に動かしたに過ぎない。

イラストレータでは、単体で持たない機能を追加する際に、**プラグイン**という方法が採用できる。必要な機能を持ったプログラムを作成し、イラストレータ本体に組み込むものである。言語地図は、特定の地点に必要な記号を置くことで完成する。ということは、地図上の調査地点に何等かの情報(GAJの場合、具体的には「地点コード」(後述)と呼ぶテキストオブジェクト)を与え、それを各地図が要求する記号に置き換えれば、言語地図になる理屈だ。このような機能を持ったプラグインを開発することでイラストレータは地図作成用ツールに変身する。

①で利点の2番目に記したように、イラストレータにはスウォッチという機能があり、記号をコード化して管理することができる。ここに目をつけると、各調査地点に与えた地点コードとスウォッチのコードを介して記号データを繋げば、言語地図作成が自動化できるはずだ。このような機能を持つべく開発したのがウィンドウズ版イラストレータ用プラグイン lms.aip である(以下、開発コードのまま、**LMS**(Language Map Systemに基づく)と呼ぶ)。後述するようにこのファイルはホームページからダウンロードできるようになっている(http://www2.kokken.go.jp/henka1/dp/gai_dp_i/gaj_lms.htm)。

③プラグインの仕様

言語地図作成用プラグイン LMS は、ウィンドウズ版イラストレータで作動する(Macには対応していない)。特にバージョン8では作動が十分に確認されている。バージョン9以上での作動確認は十分ではないが、作動画面に多少不具合が生じるものの作動結果に問題はないようだ(現在市販されているバージョンは10)。

LMS は、イラストレータに3つの機能を追加する。a テキストオブジェクトをスウォッチ登録された記号オブジェクトに置き換える。b 置き換えられた記号オブジェクトを別の記号オブジェクトに置き換える。c テキストオブジェクトを別のテキストオブジェクトに置き換える。簡単に言えば、オブジェクト間の置換機能に特化したプラグインである。

④プラグインの組み込み方

通常の方法でインストールしたウィンドウズ版イラストレータの場合、エクスプローラを使えば、次のフォルダが見つかる。

Illustrator バージョン8の場合 C:\Program Files\Adobe\Illustrator 8.0\Plug-ins

Illustrator バージョン10の場合 C:\Program Files\Adobe\Illustrator 10\プラグイン

このフォルダの中に lms という名前のフォルダを新規に作り、そのフォルダにプラグインファイルの lms.aip をコピーすれば、イラストレータ立ち上げ時に LMS は自動的に組み込まれる。

⑤プラグインの適用方法

プラグインを機能させるには、テキストオブジェクトと記号オブジェクトのスウォッチ名称とをマッチさせるデータが必要である。LMS では、コンマ区切りのテキストファイル(いわゆる CSV 形式、以下では **CSV ファイル**と呼ぶ)を用いる(LMS ではエクセルのファイルも利用可能であり、併用(特定地点の使用語形が複数に及ぶこと)は別の書式でも作動するが、ここではデータベースの基本的な形式にのっとった方法を紹介しておく)。

簡単な適用例を示す。例えば、**図2**のようにテキストオブジェクトを置いておく。

次に○, △, ▽, □と記号オブジェクトを作り, それぞれに 1, 2a, 2b, 3 と名称を与えてパターンスウォッチに登録する(図3)。

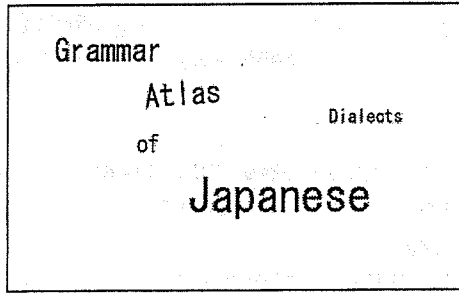


図2

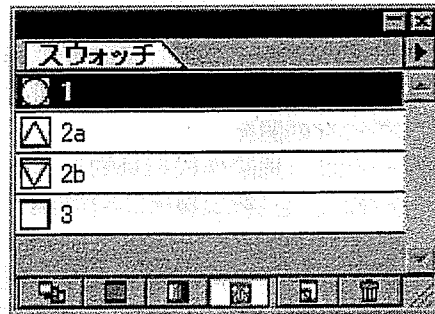


図3 登録されたスウォッチ

図2の Grammar を○, Atlas を△と□の併用, of を△, Japanese を○と▽と□の併用, Dialects を□にしてみよう。必要な CSV ファイルは表1のようなデータになる。

このデータをプラグイン LMS にかけて, 図2は図4のように書き換えられる。併用の場合は自動的にアークで各記号が繋がれる。この適用例からわかるようにテキストオブジェクトのサイズ(フォントの種類も)は無関係である。ただし, テキストオブジェクトの傾きは記号オブジェクトに反映される(図2の「Atlas」とそれに対応する図4の一連の記号が同様に傾いていることに注目)。なお, テキストオブジェクトやスウォッチの名称は, 全角文字(ひらがな・カタカナ・漢字)も一応使用可能であるが, 誤作動の可能性があるので, 半角文字(アルファベット・数字)を使うことを強く推奨する。また, デフォルト(初期設定)で登録されているパターンスウォッチは削除しておこう。

Grammar, 1
Atlas, 2a
Atlas, 3
of, 2a
Japanese, 1
Japanese, 2b
Japanese, 3
Dialects, 3

表1

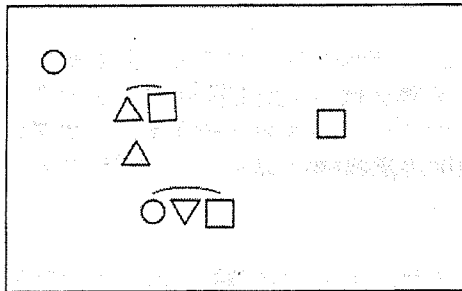


図4

この例で用いた図2の Grammar・Atlas・of・Japanese・Dialects のそれぞれの一連の文字列(テキストオブジェクト)が言語地図上の調査地点に与える情報(例えば地点番号), ○△▽□が各語形に与える記号と類推すれば, どのように言語地図作成に活用できるか理解されるだろう。

1.2. 準備作業—白地図と記号—

①白地図

海岸線や県境など地理情報を白地図として用意することが必要であるが, できあいのものであれば, デザインエクステンション社の MAPIO シリーズが便利である(<http://www.dex.ne.jp/>)。GAJ の場合は, 新規にデータを作成している。

白地図には, 調査地点にテキストオブジェクトを組み込むことが必要である。GAJ ではもともと各調査地点に調査地点番号という6桁のコード情報を用意しているが, 6桁の数字は, 面積を要するとともに入力ミスを誘いやすい。そこで数字とアルファベット

を組み合わせた 36 進法 2 桁 (0,1,2,3,...,a,b,c,...x,y,z の順で 2 桁に組み合わせる) に従い調査地点番号順にコードを与えた(表 2)。これを地点コードと呼んでいる。

プラグイン LMS の利用にあたっては、白地図での地点コードの埋め込みが重要である。注意すべきことの第一点は、テキストオブジェクトの左下隅(原点)を調査地点に置くことである。ここがプラグインを使って記号を置く際の基準点になる(記号オブジェクトの中心がここに置かれる)。第二点は、テキストオブジェクトの傾きは、プラグイン適用後の記号オブジェクトに反映される(図 2・4 の「Atlas」参照)ことである。地図の様式によるが、任意に記号を傾けることが基本になる場合がある。GAJ の場合、地図上の記号の水平垂直は、経度緯度線を基準とし、地図用紙の縦横には従っていない。

地点番号	→	地点コード
0228.96	→	00
0246.88	→	01
0247.31	→	02
:	:	:
9249.94	→	mc
9311.67	→	md
9313.46	→	me

表 2

白地図は、どのような地図であっても地図作成の基盤である。面倒に感じられるかもしれないが、ここで手を抜くと必ず後悔する。時間を惜しまず、慎重に作業したい。

②記号セット

記号セットは、手作業地図のハンコセットに相当するものと考えればよい。GAJ の場合は、基本的な記号は決まっているので、これをイラストレータのデータとして作成した。後述するように、このデータは公開している。各自で地図を作る際は、これを利用すると便利だろう。

2. GAJ 電算化作業の実際—「ありがとう(総合図)」を例に—

白地図と記号セットを利用した地図化の手順について、GAJ 第 5 集 270 図「ありがとう(総合図)」を例に示す。その際、イラストレータ上での各メニューからの操作手順を [ファイル] — [終了] のように表現する。なお、イラストレータの基本的な操作方法については、詳しく記す余裕がない。マニュアル本の類が多く出版されているので、それらを参照してほしい。

2.1. 必要なデータの作成

①凡例と記号

凡例用のファイルを作成し、そこに各見出しの文字列とそれぞれの見出しに対応する記号を置く。GAJ では、音声記号を多く使うが、研究室内の作業ではフリーで公開されている SIL IPA フォントを利用している (<http://www.sil.org/computing/fonts/encore-ipa.html>)。GAJ で利用する音声記号のかなりの部分がカバーされ、Mac と互換性があると同時にポストスクリプトにも対応している。

次にそれぞれの見出し語形に番号を与えるが、この番号が見出しに対応する各記号に与えるスウォッチの名称(記号コードと呼ぶ)となる。見出しと番号のレイヤーを別におけば、最終的に記号コードを表示しない出力形式が選べる。

記号の作成では、基本記号セットから、必要な記号をコピーし、色や向きを与え、凡例上に配置する。補助記号(基本記号の上下左右に追加する微小な線など)を付加する場合は、該当

270 ありがとう—総合図—		
1 # ANGATTO	34 # OROKADAN	62 # HIRAKATA
2 # ANGATTOGAMAU	35 # URU	63 # OROKADAN
3 # ANGATTOGAMAU	36 # URO	64 # OROKADAN
4 # ANGATTOGAMAU	37 # URO	65 # OROKADAN
5 # ANGATTOGAMAU	38 # URO	66 # OROKADAN
6 # ANGATTOGAMAU	39 # URO	67 # OROKADAN
7 # ANGATTOGAMAU	40 # URO	68 # OROKADAN
8 # ANGATTOGAMAU	41 # URO	69 # OROKADAN
9 # ANGATTOGAMAU	42 # URO	70 # OROKADAN
10 # ANGATTOGAMAU	43 # URO	71 # OROKADAN
11 # ANGATTOGAMAU	44 # URO	72 # OROKADAN
12 # ANGATTOGAMAU	45 # URO	73 # OROKADAN
13 # ANGATTOGAMAU	46 # URO	74 # OROKADAN
14 # ANGATTOGAMAU	47 # URO	75 # OROKADAN
15 # ANGATTOGAMAU	48 # URO	76 # OROKADAN
16 # ANGATTOGAMAU	49 # URO	77 # OROKADAN
17 # ANGATTOGAMAU	50 # URO	78 # OROKADAN
18 # ANGATTOGAMAU	51 # URO	79 # OROKADAN
19 # ANGATTOGAMAU	52 # URO	80 # OROKADAN
20 # ANGATTOGAMAU	53 # URO	81 # OROKADAN
21 # ANGATTOGAMAU	54 # URO	82 # OROKADAN
22 # ANGATTOGAMAU	55 # URO	83 # OROKADAN
23 # ANGATTOGAMAU	56 # URO	84 # OROKADAN
24 # ANGATTOGAMAU	57 # URO	85 # OROKADAN
25 # ANGATTOGAMAU	58 # URO	86 # OROKADAN
26 # ANGATTOGAMAU	59 # URO	87 # OROKADAN
27 # ANGATTOGAMAU	60 # URO	88 # OROKADAN
28 # ANGATTOGAMAU	61 # URO	89 # OROKADAN
29 # ANGATTOGAMAU	62 # URO	90 # OROKADAN
30 # ANGATTOGAMAU	63 # URO	91 # OROKADAN
31 # ANGATTOGAMAU	64 # URO	92 # OROKADAN
32 # ANGATTOGAMAU	65 # URO	93 # OROKADAN
33 # ANGATTOGAMAU	66 # URO	94 # OROKADAN
34 # ANGATTOGAMAU	67 # URO	95 # OROKADAN

図 5 凡例

作成する」を選んでおく(GAJに関わらず、Illustratorのバージョン9以上ではテキストを残すようにしておくのが無難)。

準備が整ったところで、「OK」ボタンをクリックする(IV)と、一気に言語地図が描き出される(図8)。ただし、最終版にするためには多少の調整が必要になる。

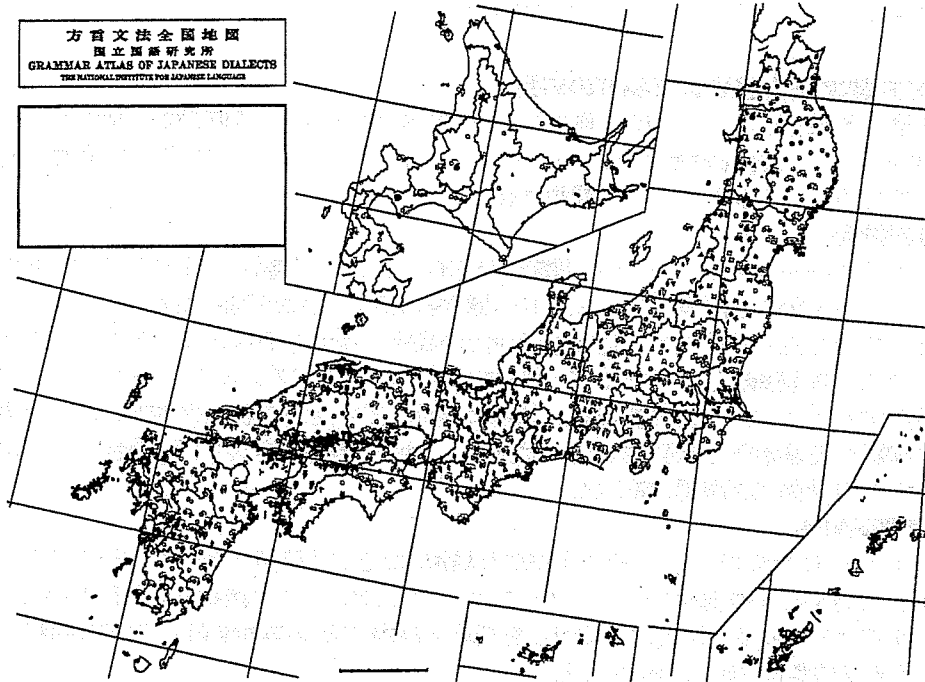


図8

③整形

プラグインLMSの概要を図9に示した。LMSにできるのは、テキストオブジェクトを記号オブジェクトに一定の手順で置き換えることまでである。それゆえ、併用の一連の記号は、配列されることで面積をとり、周囲の記号と重なる場合がある。このような重なりを回避するように手作業で記号をずらして、見栄えを向上させる作業を整形と呼ぶ。手作業のGAJでは、併用の多い地点から順次押印し、最後に単用を押印するという手順を踏んでいた。手順②で単用と併用のレイヤーを分けたのは、この品質を引き継ぐために、併用にはなるべく手をつけず、おもに単用で整形作業を行うことを念頭に置いたからである。この整形作業で、地図は完成する。

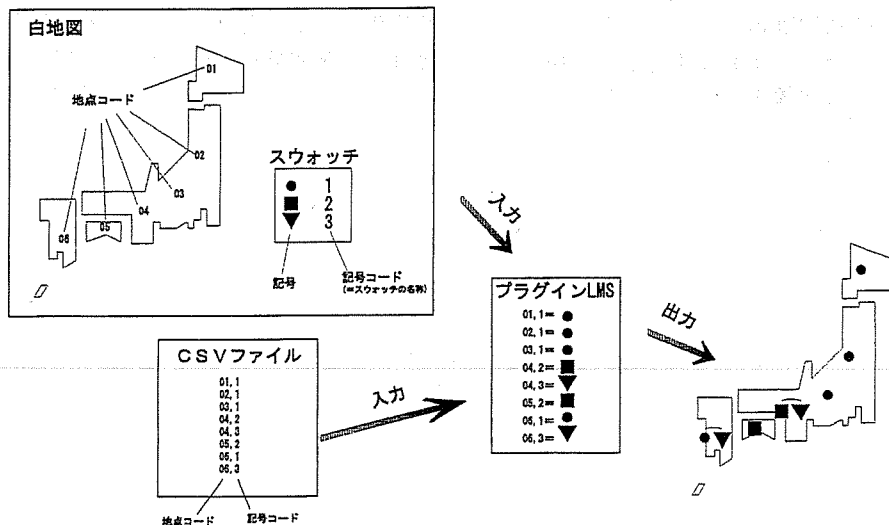


図9 LMSの概要

2.3. データとプログラムの公開

プラグインプログラム LMS, 白地図, 基本記号セット, 各地図で用いた CSV ファイルなどは, 国立国語研究所の方言研究のホームページ (<http://www.kokken.go.jp/hogen>) で公開している。利用者自身の希望に応じた GAJ の書き換えやデータ検索のほか, GAJ 以外の言語地図の作成にも広く利用されることを期待する。

3. 電算化方言文法全国地図 (iGAJ) の応用

電算化作業で作成した GAJ は, 作成グループ内では iGAJ と呼びならわされている (illustrator で作った GAJ に依る作業上のコードネーム)。iGAJ データは, さまざまな角度から再利用が可能である。この点について説明する。

3.1. 書き換え

LMS の「テキスト→オブジェクト」機能で作成した iGAJ 地図は, LMS により特定の記号オブジェクトを別の記号オブジェクトに置き換えることが可能である。例えば, 22 として登録していた△をすべて☆に置き換えたい場合, ☆に 999 のようなコードを与えてスウォッチに追加登録し, プラグインの立ち上げ時に「オブジェクト→オブジェクト置換」を選択すればよい。この機能は, 多少の手直しや, 別の記号で作成し直した場合の見栄えを確認する場合に有効である。ただし, 大幅な書き換えを行う場合は, 基本手順で作直す方が地図の品質は高くなる。

3.2. 略図の作成

GAJ は, カラーの大判であり, そのままでは論文などに引用しづらい。そこで, 見出しを簡略化した地図に描き直すというケースは少なくない。これを実行するためには, CSV ファイルのデータを利用して, 見出しを統合・捨象する必要がある。この作業には, 研究者それぞれの意図が強く反映される。

例えば, 2 で作った GAJ270 図では, アリガトーの類が「ございます」にあたる部分も含めて細分化されている。これらを単にアリガトーとしてまとめてしまう, といった手順を踏むことで, 描き直すことにしよう。まずは, 新たな統合を考え, 原図と略図の見出しの対応をデータ化する。次に CSV ファイルのデータに対し, 整理・並べ替えなどの処理を行い, 結果を新たな CSV ファイルとして書き出す。また, 必要な記号のスウォッチへの登録, 凡例の作成など地図作りに必要な一連の作業を行う。最後にプラグインを実行させることで図 10 のような略図が作成される (なお, この図では, 事前に略図用の白地図を新規に作成し, その上でデータ処理を行っている)。

3.3. 閲覧用ファイルの作成

イラストレータは種々のファイル形式への出力をサポートしている。これにより閲覧を目的とした地図データが作れる。例えば, jpeg や gif 形式なら, ブラウザでの閲覧が可能であり, PDF 形式であれば, フリーでダウンロードできるアクロバットリーダーでの閲覧が可能になる (ただし, 単純に書き出した場合, 凡例に含まれる音声記号フォントなど文字データの表示は保証されない。閲覧を目的とするのであれば, 文字をアウトライン化することでも対処できる)。

- ・ アリガトー
- ◐ アリガトーサマ・アリガトーサン
- アリガタイ
- † エガッタ
- ∠ ブコーラサ・オポーラ
- ∨ ショーシ
- ∨ タイヘン
- ∞ キノドク
- ∨ タエガタイ
- ∞ タマルカ
- △ カブン
- ∨ ホンジネ
- ∧ ウタデー
- ∗ モツケ
- ▲ オーキニ
- ∟ ダンダン
- ∗ ドーモ
- ∨ チョージョ
- スミマセン・スマナイ・スマン
- ∗ タカジケナイ
- † メーワクカケタ
- ∠ ゴチソー・ゴチソーサマ・ゴチソーデス
- † ゴネンガイリマシタ
- ∨ ヤツケ
- ニヘー・ニヘーデービル・ミヘー・ミヘーデービル
- ▲ カフー
- † タンディガー・タンディ
- ∞ オカゲサマ
- † ヨーシタ・ヨーコソ

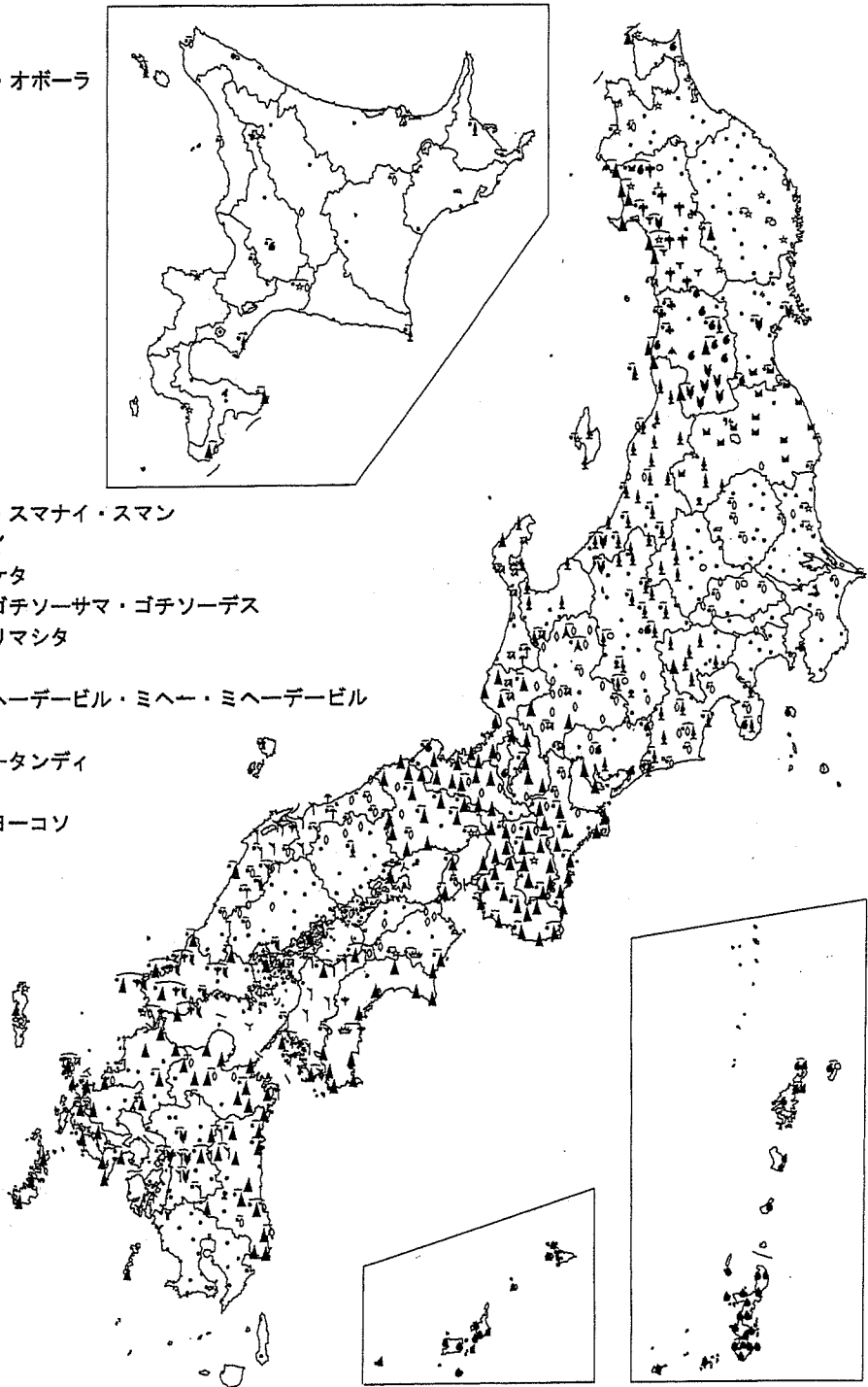


図10 ありがとう